

2017 年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて

ボランティアセンター長 岡本 哲和

関西大学ボランティアセンターは、開設 12 年目を迎えます。

大学内には、ボランティアが座学では得られない心の成長を促す活動であるとの理解と、その必要性についての認識が広がってきています。これも多くの関係者の皆様のご支援のたまものです。ここに厚くお礼申し上げます。

これまで、当センターは 1 人でも多くの関大生がボランティア活動に参加するよう、様々な取り組みを行ってきました。その結果、ボランティア活動参加者は毎年 1 千名以上（当センター主催プログラムのみ）となり、それがさらなる学生による自主活動へと発展する呼び水にもなっています。

当センターの活動の一例として、学生スタッフが企画・運営したボランティア体験ツアーがあります。そのテーマは、環境保全に関するもの、スポーツに関するもの、地域貢献に関するもの、子どもに関するものなど、きわめて多彩です。自主的で学生目線に基づいて社会や学生の関心を理解した上で考え出された企画は、ボランティア活動に対し多くの学生が持っていた先入観をよい意味で変えて、「自分ももっと活動に参加したい」と感じさせる内容となっています。

関西大学は 2016 年に創立 130 周年を迎えました。そして次の 150 周年を見据え、長期ビジョン「Kandai Vision 150」が策定されました。その中で、ボランティアセンターは新たなテーマとして「関西大学＝（イコール）ボランティア」を掲げました。情報機器の普及などにより人と直接的に関わる機会が少なくなりつつある現代において、ボランティア活動を通じて様々な人と交流し、多くの価値観に触れ、また仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって貴重な気づきと成長の機会になります。すべての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、支援活動を広げ、大学の重要な柱となるように上記のテーマを掲げました。

ボランティアセンターによる 2017 年度の新たな取り組みの一部を紹介いたします。

2017 年 12 月には、琵琶湖で特定外来種「オオバナミズキンバイ」の駆除を行いました。活動後に琵琶湖環境についての講座を実施し、環境問題について深く考える日となりました。

2018 年 2 月には、大和川大掃除を行いました。それまで実施していた淀川大掃除は、続けてきた活動が実を結び、年々ゴミの量が減少してきた経緯から、より大規模清掃のニーズが高い新たな対象として堺キャンパス近くの大和川河川で清掃活動を実施することになりました。当日は、関大生と大学関係者だけでなく、本学と連携協定を結んでいるミズノ株式会社の社員も含めて約 300 名で活動しました。

また、当センターは関西大学のキャンパスが立地する吹田市・高槻市・堺市の行政や市民団体とも連携し、様々なボランティア活動にも積極的に取り組んで各方面から高い評価を得ています。詳細は本報告書をご覧ください。

これからも、ボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

2018 年 3 月

2017 年度活動報告書 目次 (2017.4 ~ 2018.3)

2017 年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて・・・ボランティアセンター長 岡本 哲和

1	2017 年度ボランティアセンター事業報告	4
2	環境保全活動及び連携事業	7
3	堺市との地域連携事業におけるボランティア活動 (事務局：堺キャンパス事務室)	13
4	学生スタッフ育成プログラム	14
5	各種講座	17
6	ボランティアセンター学生スタッフ活動記録	27
7	学生スタッフ代表からの一言	48
8	学内ボランティア団体への支援	49
9	広報活動	63
10	学生の声	69
11	資料	72
12	ボランティアセンター紹介記事	77
	編集後記	90

1 2017 年度ボランティアセンター事業報告

関西大学ボランティアセンターは、関大生のみなさんがボランティア活動を通して多くの学びや気づき、貴重な経験等が得られるよう、日々新たなボランティア活動支援を模索しています。

2017 年度は、新たな取り組みとして淀川大掃除に続くイベントとなる「第 1 回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を総勢 300 名で実施しました。また、淀川掃除 10 周年という節目の年に「清掃」だけでなく、身近な環境問題について考える場として、「琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来」と題し、特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動を実施しました。このように、関大生がボランティア活動を通して環境について考える機会を創出しました。

2016 年 10 月には、未来と飛翔する関大人のシンボルとなる都市型拠点“KANDAI Me RISE”として梅田キャンパスが開設しました。ボランティアセンターでは梅田キャンパスを拠点にボランティア体験ツアーを企画し、新しい事業にも取り組むなど活動の幅を広げた 1 年となりました。

以上のように、新たな事業に取り組む一方、従来より当センターが取り組んできた事業も、規模を拡大しながら推し進めてまいりました。地域に支えられている大学として、地域からの要請に少しでも応えることができるよう、我々にできることを模索しながら、今後も活動を展開していきたいと考えています。

センター登録者は累計 4480 名を突破しました。

データ ボランティアセンター登録者数

年度	登録者数
2005	28
2006	153
2007	230
2008	233
2009	288
2010	359
2011	422
2012	450
2013	422
2014	472
2015	399
2016	502
2017	522
計	4480



2017 年度ボランティアセンター事業概要

1

学生スタッフ育成及び学生ボランティア団体への支援

- ・学生スタッフガイダンス
- ・学生スタッフ養成講座
- ・学生スタッフ養成合宿
- ・学生ボランティア団体合同企画「ボランティアフェスティバル」
- ・ボランティアセンター教職員と学生スタッフの懇談会
- ・学生スタッフ代表者及びグループリーダーとのミーティング
- ・学内ボランティア団体とのミーティング
- ・学生スタッフ活動報告会

2

本学学生のボランティア活動支援のための講座・プログラムの実施

(2017 年度の主なもの)

- ・新入生指導行事等に伴うボランティアガイダンス（全学部）
- ・ボランティアセミナー in 千里山キャンパス
- ・災害ボランティアガイダンス
- ・コミュニケーションスキルアップ講座「学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー」
- ・テーマ別講座「レクリエーション講座」～楽しくなる“魔法”のかけ方♪～
- ・テーマ別講座「学習支援」って何だろう？～社会環境と子どもの学び～
- ・テーマ別講座“発達しようがい”って個性なの？！～ともに生きる豊かな人間関係をめざして～
- ・琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来～事後講座～

3

学生スタッフによる活動

- ・ボランティア情報の紹介
- ・新入生歓迎行事「学生スタッフ活動紹介」
- ・関大クリーン大作戦～図書館の本の落書き消し～
- ・関大クリーン大作戦～大学周辺の清掃活動～
- ・ボランティア体験ツアー～淀川掃除～
- ・ボランティア体験ツアー～小学生に防災について楽しく学んでもらおう！学童ふれあいボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー～ヒミツがいっぱい！いろんな“昔”を見てみよう@キッズミュージアム～
- ・ボランティア体験ツアー～千里にみんなの光を灯そう！千里キャンドルロード 2017 ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー まち FUN まつり in 関西大学 2017 運営補助ボランティア
- ・第 6 回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加
- ・ボランティアカレンダーの作成
- ・大阪マラソン給水ボランティア事前説明における学生スタッフによるボランティア紹介
- ・頑張る人を学生スタッフと一緒に応援しよう！！～第 7 回大阪マラソン給水ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー～日用品で子どもたちと楽しくレッツ工作！～
- ・ボランティア体験ツアー 2017 学園祭～ゴミの可能性を子どもたちに！～みんなでつくろうエコの学び舎
- ・琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来
- ・ボランティア体験ツアー～みんなで守ろう！蛍の光ボランティア～
- ・ボランティア体験ツアー 飛鳥光の回廊
- ・第 1 回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～

学外の機関との連携で行うもの

4 連携事業

大阪家庭裁判所との連携事業「大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム」

2 環境保全活動及び連携事業

活動イメージ



1 環境 淀川掃除（ボランティア体験ツアー）

2007年5月11日に市民団体である、淀川掃除に学ぶ会の会長が来室され、同会が毎月第1日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集協力依頼を受けた。かねてからボランティア体験ツアーの実施を検討していた学生スタッフが2007年8月4日、ボランティアセンター職員と共に活動に参加し、これを一般学生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、以後継続して実施している。



参加者数は、2017年11月には累計およそ6,700名となった。関大生にとって「気軽にできるボランティア」であり、親しみのある活動として定着している。2011年1月21日には、ボランティアセンター学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定された。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川事務所が管理する一定区間で活動していること、且つ定期的に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けたこと、本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、この年から本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を2016年度まで開催した。



また、この認定を受けたこと、本事業が2011年度で5年目を迎えた記念として、この年から本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を2016年度まで開催した。

2 環境 大和川掃除（ボランティア体験ツアー）



2007年度から行ってきた淀川掃除と2011年度から開催している年1回の淀川大掃除は、続けてきた活動が実を結び、清掃していたエリアに関してはゴミの量は年々減少し、大人数で掃除する必要がないほどになった。そこで2016年度からは、他の河川の美化にも貢献したいという思いから様々な検討を重ね、堺キャンパスのボランティア団体WEVOと連携し、堺キャンパス近くの大和川の清掃を「ボランティア体験ツアー」として実施していることや、継続的に清掃してもなお大和川の環境状態が芳しいとはいえない状況から、年に1回実施してきた大掃除の場所を淀川河川敷から大和川河川敷へと移し、2018年2月18日（日）に「第1回大和川大掃除ボランティア～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を開催した。

淀川大掃除と同様にミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、当日（2月18日）は、約300名が参加し、社会人の方や併設校の生徒といった普段関わることのないたくさんの方と関わる機会となり、参加者にとって有意義な時間となった。

淀川大掃除と同様にミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、当日（2月18日）は、約300名が参加し、社会人の方や併設校の生徒といった普段関わることのないたくさんの方と関わる機会となり、参加者にとって有意義な時間となった。

3 環境・連携 【認定NPO法人びわこ豊穰の郷との連携事業】

琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来

2017年度に初めて、認定NPO法人びわこ豊穰の郷が取り組んでいる特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加した。「オオバナミズキンバイ」は水陸両生の水草で、その生息域を急速に拡大しそのまま放っておけば淀川水系全てに広がってしまう恐れがある。この水草は茎や葉の断片からも再生するため、機械ではなく手作業で根や茎をできるだけ残さないような駆除作業をする必要があり、ボランティアの力が求められている。





ボランティアセンター開設時より清掃ボランティアに取り組み、多くの関大生が環境について考える場となった「淀川」の源流が琵琶湖である。また他にも、芥川での掃除やアユの産卵場整備、特定外来生物ミズヒマワリ駆除活動など、当センターでは琵琶湖を源流とする淀川水系で多様なボランティア活動を展開しており、今回関わりが深い琵琶湖での清掃活動を通し身近な環境問題について学びを深めた。

当日（12月17日）は、一般学生7名、学生スタッフ10名、職員4名がボランティアとして参加した。水ぎわや岩場に生える「オオバナミズキンバイ」の駆除作業を行った後、琵琶湖の環境について考えるワークを実施し、自分達にできることを模索した。

4 連携 【奈良県明日香村・関西大学との地域連携事業】

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域であり、1972年の高松塚古墳の発掘調査は本学の故網干名誉教授（明日香村名誉村民）の指揮のもと行われ、石室、壁画の発見をはじめ、明日香村と長きにわたり親密な関係を築いている。そして、2006年、あらためて地域連携に関する包括協定を結ぶに至った。本学では「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、継続的な事業として連携を深め、学生ボランティアの依頼を受けるようになってから10年が経過している。明日香村の中心を流れる飛鳥川における、河川敷の環境保全及び景観改善を目的としたボランティア活動にも取り組んでいる。



飛鳥光の回廊（ボランティア体験ツアー）



明日香村が毎年開催している「飛鳥光の回廊」に、学生ボランティアの協力を仰ぎたい旨、本学の社会連携センターを通じて依頼があり、2011年度より明日香村との連携事業の一環として、当センターも本事業に参加している。

初年度は、当日のみ参加し、明日香村の方が予め考案したデザイン図を基に、灯籠を並べ点火する形であったが、2012年度より、企画の段階から学生が本事業にかかわり、学生スタッフと学生ボランティアと一緒に灯籠のデザイン図を考える形に変更し、より一層やりがいや達成感が感じられる活動になった。

本年度は9月23日・24日に開催され、一般学生13名、学生スタッフ32名がボランティアとして参加した。今年のキャンドルデザインは「四季の花と風景」をテーマに、当センターは石舞台古墳周辺を飾る灯籠のデザインの制作、配置、ろうそくの点火などを担当した。石舞台古墳では四神が司る季節を表したデザインの地上絵が美しく輝いた。



5 環境・連携 【高槻市との連携事業】

摂津峡クリーンアップボランティア（ボランティア体験ツアー）



当センター学生スタッフは、高槻市の職員や高槻市社会福祉協議会と定期的にボランティアニーズに係る打合せを実施している。打合せ会で高槻市が2013年度から「クリーン&マナーアップ事業」として摂津峡公園周辺の清掃・啓発活動を実施していることを知り、ボランティア体験ツアーとして参画することとなった。

※2017年度は雨天のため中止となった。

6 環境・連携 【市民団体「新川姫蛍と花を守る会」との連携事業】

2011年1月に、学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席し、その際に高槻市市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、関わることとなった。

(1) みんなで守ろう！蛍の光ボランティア（ボランティア体験ツアー）



当該団体は、高槻市の新川に生息する姫蛍の保護活動を中心に活動する団体であり、姫蛍は大阪府で絶滅危惧種に指定されていることから、毎年「蛍の観賞会」を開催し、観賞者に対して啓発ビラを配付し、環境問題について考えてもらう機会としている。

学生スタッフは一般学生に、ボランティアとして「蛍の観賞会」の運営スタッフとして関わることで、環境問題について考えてもらいたいという想いから、ボランティア体験ツアーとして企画し、活動に参加した。



当日（5月13日）は、ボランティアとして一般学生13名、学生スタッフ7名が集まり、姫蛍の啓発ビラ配りや、観賞会に彩りを添えるために新川の河川敷に灯籠を並べた。灯籠の配置については、事前に参加学生がデザインを考え「KANDAI×ヒメボタル」という文字に決定し、デザイン図を基に設置した。

(2) 新川景観美化ボランティア ～咲かそう蓮の花～（ボランティア体験ツアー）



蓮池に植えられた蓮根が繁殖し、新川の流れをせき止めている現状がある。当該団体では、蓮池の泥を取り除き、蓮根を整理することで水の流れをよくし、蓮根の生育環境を整え美しい蓮池を維持する活動に取り組んでいる。本活動への参加依頼を受け、ボランティア体験ツアーとして企画し、活動に参加した。

当日（12月3日）は、ボランティアとして一般学生4名、学生スタッフ9名が集まり、胴長を着て実際に沼に入って蓮根を取り除き、同時に溜まっている泥を一輪車で運ぶ活動を行った。泥の中から蓮根を探し出すのは難しく、重たい泥を土のう袋に入れて運ぶ作業は体力がいる活動だったが、当該団体との交流を楽しみ、笑顔が絶えない活動であった。

7 環境・連携 【NPO法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブとの連携事業】

高槻花植えボランティア 高槻に咲かす！つながりの花！（ボランティア体験ツアー）



高槻市からの紹介を受け、2017年度よりNPO法人花と緑のまちづくり高槻景観園芸クラブの活動である「花植え活動」へ学生スタッフが参加した。

本事業は、地域の方との活動と交流を通して、身近な環境美化について考える機会となることから、ボランティア体験ツアーとして実施し、当日（11月19日）は、ボランティアとして一般学生4名、学生スタッフ9名が参加した。JR高槻駅前の花壇に色とりどりのパンジーやデイジーを植え、彩りを添える活動となり、通りすがりの地域の方々から激励のお言葉もいただき、人の心にも彩りを添える活動となった。

8 環境 エコキャップ運動

身近なことからできる環境保護・国際協力活動として、2008年7月からエコキャップ運動を開始した。

エコキャップ運動は、NPO法人「e-kotonet」などが中心となり行っている活動で、その後一般社団法人イーコトキャップ、そして2018年1月からは一般社団法人子ども食堂に受け継がれ回収を行っている。エコキャップ運動協賛企業がペットボトルキャップを回収し、リサイクルすることによって得た利益を認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付するというものである。

認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付金は、unicefと連携してワクチンが支援先の子どもたちに送られる。また、2017年度(2017年3月31日現在)回収を依頼したキャップの累計総数は286,600個であった。



9 連携 【大阪家庭裁判所との連携事業】

大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム

大阪家庭裁判所において行われている、「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は開始から12年目を迎え、活動の意義を考えると、学生にとっても真摯に取り組むインセンティブとなっており、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の両者によって学生たちが活動しやすいように、様々な工夫を検討していただいている。例年15名の募集であるが、2017年度は19名の登録があった。

<学生募集及びボランティア登録・実施の過程>

- ① ボランティアセンターが法学部（刑事法、親族・相続法など裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（刑法、刑事政策）、大学院心理学研究科などの教員へ協力依頼を行う。
- ② 教員の推薦された学生のみ、登録手続きに進む。
- ③ 登録した学生への大阪家庭裁判所調査官等による研修を実施する。
- ④ 少年の都合に合わせ活動計画を調査官とともに相談する。

2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名
2016年度	13名
2017年度	19名

<研修・施設見学などの実施結果>

5/10、6/6、7/5	6/27	12/6	2/21
オリエンテーション	情報交換会	少年院見学	活動報告会
プリムローズ大阪 (5/10: 6名、6/6: 5名、 7/5: 4名) ※	本学・凧風館 4F (9名)	交野女子学院 (10名)	プリムローズ大阪 (10名)
調査官からの試験観察制度・少年審判・学習指導についての説明を受け、裁判所庁舎の見学を行った。	学習指導実績のある学生から実際の活動例と工夫を紹介し、質疑応答を行った。	女子受入れの少年院にて、更正施設の概要と特色の説明を受けた後、実際の施設の見学を行った。	今年度、学習指導実績のある学生から、少年の活動実績と感想を述べ合い、調査官を交えて意見交換を行った。

※人数の都合上3回に分けて実施した。

<家庭裁判所調査官からのコメント>

○指導回数4回（中3）のケース

高校受験を控えながらも分数の足し算ができないので、試験観察のときに分数の四則計算だけはできるようにしておきたいと考えて学習指導をお願いした。指導に当たった学生からはできたことの報告もあり、おかげで、自分の知識を引き出すことが苦手な子が、学習指導を通して習慣付けるようになったことが自信に繋がったと思う。

○指導回数8回（工業高1）のケース

家庭裁判所内での更正計画に基づき、社会奉仕活動などにも参加し、試験対策で毎日学習指導をしたこともあり、学校での成績も向上した。少年は学生から学習指導を受ける中で、裁判所に関わる人の多様さを知り、少年の成長に繋がったと思う。

○指導回数6回（中3）のケース

学習指導で学校の課題をすることで今の学力の位置づけが分かり、少年の状況に合わせて指導を行うことで、学習意欲が高まり、集中力が続くようになったと思う。

○指導回数7回（中3）のケース

学習指導で受験対策はもちろん学生から色々と支援をしてもらったことで、少年が熱心に学習に励んだ結果、高校受験に合格した。

<家庭裁判所調査官からの総括コメント>

学習指導としての活動内容だけではなく、学生によって色んな工夫をしてもらっていることを活動報告会で知った。少年にとっての学習の遅れはとても深刻な問題の1つである。少年にとっての更生の一步として携わってもらい感謝している。

※文中で女子を「少年」と表記しているが、例えば少年法では「満20歳に満たない者」を指し、児童福祉法では「小学校就学から満18歳に達するまでの者」を指す。いずれも男子と女子を含んでいう。

3 堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務局）

堺キャンパスのある堺市と関西大学は2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向いて児童生徒の運動促進を図る取り組みに協力したり、地域の子どもたちを対象にスポーツ企画を運営するなど、講義だけでは学べない経験を積み、大きく成長している。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与することもめざしている。2017年度は以下の事業にボランティアとして参加した。



住吉祭神輿渡御学生ボランティア

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア 学生数 (行事参加者数)	会場
堺市民対象 ソフトボール スクール	5/28(日)	9:30～11:30	支援学級中学生 ソフトボール交流教室	関西大学 人間健康学部教授 小田 伸午 関西大学 体育会 ソフトボール部監督 吉末 和也	28名 (9名)	関西大学 堺キャンパス Evergreen
		13:00～15:30	女子中学生対象 ソフトボール教室		28名 (66名)	
住吉祭神輿渡御 ボランティア2017	8/1(火)	14:30～21:30	住吉祭神輿渡御ボランティア	—	(84名)	大和川～住吉大社 宿院頓宮
人間健康学部 学生ボランティア ネットワーク	4/14(金)	15:30～18:00	三国丘中学校 サッカー部でのサポート	関西大学 体育会サッカー部所属 人間健康学部生	1名	三国丘中学校
	4/28(金)	15:30～17:30			1名	
	5/26(金)	15:30～18:00			1名	
	6/9(金)	15:00～17:30			1名	
	6/16(金)	15:30～18:00			1名	
	7/7(金)	15:30～17:30			1名	
	11/1(金)	15:30～17:30			1名	
	11/10(金)	15:30～17:30			1名	
	2/16(金)	15:30～17:30			1名	
社会的養護の普及・啓発 および社会的養護下にある 子どもの自立支援事業	4月～3月	—	学生が施設を訪問して 学習指導・スポーツ指導	—	延べ64名	児童養護施設 愛育社
					延べ16名	児童養護施設 清心寮
					延べ28名	児童養護施設 泉ヶ丘学院
					延べ49名	児童養護施設 東光学園
—	7/23(日)	13:00～15:00	スポーツ指導 ソフトボール教室	—	26名 (11名)	堺キャンパス エバーグリーン
	8/3(木)	13:30～15:30	スポーツ指導 フットサル教室		8名 (17名)	堺キャンパス 体育館アリーナ
平成29(2017)年度 体力向上推進事業	6月～3月	—	「スクールサポーター」として 堺市内の体力向上重点校 で、 レクリエーションや体育授業、 クラブ活動等を補助	—	2名	上野芝小学校
					2名	榎小学校
					4名	福田小学校
					5名	三原台小学校
					3名	三原台中学校

堺市と関西大学との地域連携事業は、関西大学の地域貢献協力資金により運営されており、2010年度から開始され、2017年度で8年目を迎えている。

4 学生スタッフ育成プログラム

ボランティアセンターでは、「ボランティア職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念とする学生スタッフを置いている。

ボランティアセンター職員は、学生スタッフが主体的に企画・運営ができるようにさまざまな支援を行っている。また、学生スタッフは関大生にボランティア情報を紹介するために、研修及び活動調査の一環として「ボランティア体験隊」を実施している。

以下は、当センターが実施しているプログラムである。

1 ボランティアセンター学生スタッフガイダンス

学生スタッフになりたいという学生に対して、職員が1時間のガイダンスを行っている。内容としては、ボランティアセンター（ボランティア活動支援グループ）の位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援が手厚いこと、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなくボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行っている。

2 ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

2016年度から2017年度にかけて当センター学生スタッフ登録者数が増加したこともあり、当センターでは学生スタッフ自身のスキルアップを目指した研修にも力を入れている。

第1回では、ボランティアコーディネートをを行う上で欠かせない「傾聴」のテクニックについて学ぶ機会を設け、実践形式で理解を深めた。

第2回では、養成合宿前に当センターでの半年間の活動を振り返りながら、「自分新聞」を作成した。作成した記事を学生スタッフ同士で披露し合い、互いの成長を確認する機会となった。

第3回では、シチズンシップ共育企画 代表の川中 大輔氏をお招きし、組織運営において非常に重要な「引継ぎ」のコツや、団体継承について“想い”を引き継ぐことの重要性についての講座を行った。

第4回では、意見交流会として「ボランティアセンターの未来」「2018年度に達成すべき目標」についてディスカッションを実施した。互いの想いを共有し、意見交換することによって、普段気付くことができていなかったスタッフ間の意識の差や考え方、不足しているものや得意としていることなどを共有することができ、新年度を迎えるにあたっての意識の統一をはかる機会となった。



日 時	コーディネート講座
	第1回 6月22日(木)
	18:00~19:00
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C401 教室
講 師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内 容	傾聴力の養成及びボランティアコーディネートの実践練習

日 時	養成合宿(夏)前の活動振り返り講座
	第2回 9月5日(火)
	10:00~12:00
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C506 教室
講 師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内 容	活動の振り返り(2017年4月~8月) 半年間を振り返って「自分新聞」を作製する

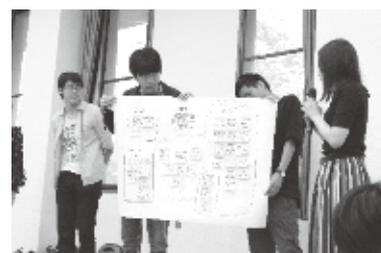
日 時	活動引き継ぎ講座 ~その「引き継ぎ」, 本当に引き継げるの?~
	第3回 10月4日(水)
	18:00~19:30
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C402 教室
講 師	シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏
内 容	団体内での活動引継ぎについて

日 時	養成合宿(春)後の活動振り返り講座
	第4回 3月27日(火)
	14:00~17:00
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C204 教室
講 師	ボランティア活動支援グループ 村上 翔也
内 容	今後のボランティアセンターについて

3 ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿(於:飛鳥文化研究所)

9月15日(金)~16日(土)に、奈良県の飛鳥文化研究所にて夏の養成合宿を実施した。岡本所長、松村副所長、当センターからは堀グループ長、村上が参加し、学生スタッフは55名が参加した。合宿では、「学生スタッフのチームワークを高め、未来に繋がるボランティアセンターについて考えよう」をテーマに話し合いを行った。合宿班が考えた様々なワークを通じ、参加者は「自身が学生スタッフとしての活動の当事者である」ことを再認識し、今後の活動への意欲を高める良い機会となった。

春の養成合宿は、3月8日(木)~9日(金)に飛鳥文化研究所で実施した。当センターから堀グループ長、村上、三浦が参加し、学生スタッフは30名が参加した。合宿では、「実現可能なボランティアについて考えよう」をテーマとし、グループごとに熱く意見を交わした。ワークを通して、1人ひとりのボランティアに対する活動意欲を高める貴重な機会となった。



4 ボランティアセンターと学生スタッフ代表者及びグループリーダーとのミーティング

学生スタッフへの日常的な支援として、月に1回程度職員と代表者がミーティングを行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。代表者と話し合うことで、その時点の学生スタッフ全体の強みや弱みを知り、団体として成長していけるよう支援している。また、学生スタッフは5つの班に分かれて活動していることから、各班の間での情報共有の場として機能するように、職員を交えてグループリーダーとのミーティングを行っている。

5 ボランティアセンター学生スタッフによる「ボランティア体験隊」

学生スタッフの活動の目的である「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ために、当センター職員から「まず自分たちがさまざまなボランティア活動に携わることが重要である」と学生スタッフに働きかけたことを機に、2010年から実施している。本企画は、①学生スタッフが自らの体験を基に関大生にボランティアの楽しさ、やりがいを伝えること、②ボランティア募集团体代表者または担当者にお話を伺い、関大生の活動状況を調査することを目的に行った。また、機関紙『Volury』でも「ボランティア体験隊」を連載し、学生スタッフが体験したボランティアの魅力を伝えている。

6 ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会

活動報告会では、2017年度の学生スタッフの取り組みについて代表・副代表および各班リーダーが報告し、教職員との意見交換（学生スタッフに期待すること等）、および4年次生の4年間の活動の振り返りを行った。

また、各班の発表内容を受けて岡本所長、松村副所長、橋口政策創造学部准教授より講評をいただいた。本報告会へは、発表者に加え共に活動に取り組んできた1・2年次生も出席し、成果及び課題を一緒に振り返った。講評で頂戴したご意見は、学生スタッフ内で共有し、次年度の活動に繋げることとした。



日 時	2018年3月13日（火）
	14:30~16:00
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C204 教室
出 席 者	岡本所長・松村副所長・橋口政策創造学部准教授（ボランティア連絡協議会委員） 堀グループ長・ボランティアセンター職員（藤野、村上、春名、三浦）、 学生スタッフ幹部・各班リーダー・学生スタッフ、 ピア・コミュニティ学生

5 各種講座

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わるきっかけ作りとしての講座やコミュニケーション能力の向上のための講座など実施している。

* * * * * 講座日程表 * * * * *

月	日	時間	講座名
4	26	18:00~19:30	ボランティアセミナーin千里山キャンパス
6	21	18:00~19:30	テーマ別講座「レクリエーション講座」 ～楽しくなる“魔法”のかけ方♪～
	28	18:00~19:30	テーマ別講座「学習支援」って何だろう？ ～社会環境と子どもの学び～
7	3	18:30~19:30	災害ボランティアガイダンス
10	6	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～① 聴き上手になるためのコツ
	13	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～② 話し上手になるためのコツ
	20	18:10~19:40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～③ コミュニケーション力アップのためのコツ
	27	18:10~19:40	テーマ別講座“発達しょうがい”って個性なの？！ ～ともに生きる豊かな人間関係をめざして～
12	17	13:00~14:00	琵琶湖ツーリズム！ 関大生で考える環境ボランティアの未来 事後講座



* * * * 各種講座 * * * *

1 ボランティアセミナーin千里山キャンパス

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動へのやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることで、ボランティア活動への参加を促すこと、また、学生にボランティアセンターを気軽に利用してもらうために、ボランティアセンターで受けられるサービス等についての紹介を行うことを目的とし開講した。



講師からボランティアの種類、活動内容などの幅広い紹介をはじめ、講師ご自身のエピソードも交えながらお話しいただいた。ボランティア経験者から「ボランティアの魅力」についてお話しいただくことで、参加学生にとって自分事として捉えやすい内容であったと思われる。参加した学生はメモを取ったり、セミナー終了後に講師に質問をするなど、ボランティア活動に興味を抱いている様子を伺うことができた。

日 時	4月26日(水) 18:00~19:30
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階ミーティングルーム
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
受講者数	26名

【受講者の声】

- 大学生になって漠然と学生生活を送るのは良くないと思い、何か始めるのであれば誰かのためになるボランティア活動をしたいと思いセミナーに参加しました。参加してみて、こういった活動があるのか具体的に知ることができて、よかったですと思いました。 (社会・1年次生)
- ボランティアに関心があり、どういう気持ちで活動に取り組んでいけばいいのかと思っていました。話を聞いて、それぞれのボランティアのカタチがあっていいことが分かりました。人と関わり、料理やガーデニングといったボランティアに参加し、人の役に立ってみたいです。 (文・1年次生)

2 ボランティアセンター・テーマ別講座

「レクリエーション講座」～楽しくなる“魔法”のかけ方♪～

本講座は、現在子どもに関わるボランティアに携わっている学生はもちろん、これから活動してみようという学生、また、子ども以外でも人と人をつなぐ役割を担う学生に「レクリエーションとは何か」について学ぶ機会を提供し、様々な“遊び”を体験することで、レクリエーションの幅を広げてもらうことを目的とし開講した。



ボランティア活動では、子どもと関わる機会が多いものの、すぐに打ち解け、楽しんでもらうために何かしようと思っても、咄嗟に対応することは困難である。レクリエーションは非常にシンプルで、誰でも参加でき、楽しめるものでありながら、実はとても奥の深いものである。初対面の人同士が顔を合わせることが多いボランティア活動において、始めにレクリエーションを行うと、まるで魔法をかけたように参加者同士が打ち解け仲良くなることができる。本講座を受講して様々なレクリエーションの引き出しを手に入れた学生には、是非ボランティア活動の現場で実践して、楽しくなる“魔法”をかけて欲しい。

日 時	6月21日(水) 18:00~19:30
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階小ホール
講 師	関西大学 人間健康学部 涌井 忠昭 教授
受講者数	18名

【受講生の声】

- 初めて知るレクリエーションが多かった。身近にあるチラシ等を使って簡単にレクリエーションをすることができ、初めて出会った人同士でも楽しく仲良く交流できました。(社会・1年次生)
- 両手を用いたグーパー運動をある程度の頻度で行ったところ、要介護のお年寄りの方が行う前よりもイキイキとした生活を送られたという話が印象に残っています。初対面の人同士がすぐに溶け込めて、仲良くなれるレクリエーションについて学べてよかったです。自分達で実践してみて楽しかったので、今後の活動に活用していきたいと思いました。(文・3年次生)

3 ボランティアセンター・テーマ別講座

「学習支援」って何だろう？ ～社会環境と子どもの学び～

「学習支援」とはどのような活動のことを指すのか、また、どのような背景（社会問題）から学習支援が行われているのかについて本学学生に広め、伝えることを目的とし開講した。



当センター内のボランティア掲出状況を見てもわかるように、学習支援に係わるサポートを求める声は年々増えており、社会におけるボランティアニーズも高まっている。学習支援が多く求められる背景には、家庭における金銭的な理由だけではなく、子どもが「ひとりぼっち」の状態に陥っているケースも多く見られるとのことである。今回は現場で様々な取り組みをしておられる講師に現状をお話していただいた。

当センターには学習支援ボランティアに興味のある学生が多く訪れているため、適切なボランティアコーディネートを行うことで、学習支援を求める環境にある子どもたちとボランティア学生を繋げていきたい。

日 時	6月28日(水) 18:00~19:30
場 所	千里山キャンパス 第2学舎 C506 教室
講 師	特定非営利活動法人 あっとすくーる 代表 渡 剛 氏
受講者数	27名

【受講生の声】

- 学校にも家にも居場所がない子どもたちの居場所を作るという活動が、私が中学生の時にもあったらよかったのにと思いました。子どもたちのために様々な気遣いや努力をたくさんされていて、私もこのボランティアに参加したら何か勉強になることがあるはずなので参加してみたいと思いました。
(法・1年次生)
- 講座を受けて、日本のひとり親家庭の子どもの貧困率が先進国の中で1番高い、ということが印象に残っています。学習支援を行うことによって、子どもと保護者が進学に対して前向きな考え方を持つようになったという経験談を聞いて、とてもすばらしい活動だと改めて感じました。(化学生命工・3年次生)

4 災害ボランティアガイダンス

連休や夏季休暇を利用して、2016年に地震が発生した熊本や、復興途上にある東北などの被災地へ災害ボランティアに行くことを検討している学生、災害ボランティアに興味がある学生が多くいる。災害ボランティアを行うには災害ボランティア活動に対する知識と意識、身体的、精神的な安全確保の意識を高めるとともに、十分な情報を得たうえで、より良い意思決定が行えなければならない。そのために、最新のボランティア活動状況や、被災地へ行く際の心構え、学内手続きについて周知することを目的とし開講した。また、熊本と東北の現状説明や梅田氏の体験談、災害ボランティアに行く際の服装や持ち物、宿泊場所を自分で確保しなければならないこと、食事のことなど具体的な説明があり、学生にもわかりやすい内容であった。



日 時	7月3日(月) 18:30~19:30
場 所	千里山キャンパス 第1学舎 1号館 A501 教室 高槻・高槻ミューズ・堺キャンパスにおいては Web 中継にて実施
講 師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 梅田 純平 氏
受講者数	千里山7名・高槻ミューズ4名 合計11名

【受講生の声】

- 夏季休暇中に東北へ復興支援ボランティアに行くことになったので、災害ボランティアガイダンスに参加しました。学部内で学んでいることの実践にあたるボランティアについて学ぶことにより、理解がさらに深まりました。私は広島県出身で、広島市の土砂災害の際にボランティアに参加できなかったのが、今回の講座をきっかけに学んでいることをうまく活用できるように自分なりに準備をしようと思いました。
(社会安全・1年次生)
- 私の地元が九州で昨年の熊本地震が印象深く、災害ボランティアを具体的にもっと知り、何か力になりたいと思い、このガイダンスに参加しました。ボランティアを受ける側の人の気持ちを大事にしなければならないということがわかりました。また、ただ参加する形だけのボランティアでは現地の方にとって迷惑になってしまうということがわかりました。
(経済・1年次生)

5 学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～（全3回）

ボランティア活動を始めたいが、「自分に自信がなく、最初の一步が踏み出せない」という学生もいる。そういった学生の不安を解消するために、「自分らしいコミュニケーションの取り方」を知ってもらう機会を提供することを目的とし開講した。

講座全体を通して、色々な人とのコミュニケーションの機会が持てるように、毎回メンバー構成を変更して様々なグループワークに取り組んだ。同じものでも視点や視座・視野が異なれば見え方が変わる。相手の立場に立つことや、相手の心を知ろうとすることはコミュニケーションの一步である。学生生活では新たな出会いが溢れているが、その相手はそれぞれ異なった個性を持っている。万人に適応する魔法の言葉は無いかもしれないが、コミュニケーションをとる際の「自分の意識」の持ち方は変えることができる。本講座を通して学びとったことを学生生活で活かし、各自に合ったコミュニケーションの取り方を身に付けてほしい。



日 時	10月6日～10月20日（毎週金曜日・全3回） 18:10～19:40		
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階ミーティングルーム		
講 師	NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事 本学ハラスメント相談員 宮本 由起代 氏		
受講者数	第1回	10月6日（金）	} 14名 7名 延べ35名 14名
	第2回	10月13日（金）	
	第3回	10月20日（金）	

【受講生の声】

- “きく”（聞く、聴く、訊く）にもいくつか種類があり、意識を一つ変えるだけで会話を“きく”楽しさを感じることができると知りました。 （文・2年次生）
- 感情を言葉で相手に伝えるということが重要だと思いました。普段、感情が先走って、言葉ではなく態度に出やすいので、「心のシャッター」を閉めるのではなく、言葉で伝えるようにしていきたいです。 （文・1年次生）
- 怒りの感情は価値観に関わっていると聞いて面白いなと感じました。怒りの感情をいつも抑え込んでいました。本日のセミナーに参加して学ぶことで腑に落ちました。本当に良かったです。 （法・1年次生）

6 ボランティアセンター・テーマ別講座

“発達しょうがい”って個性なの?!～ともに生きる豊かな人間関係をめざして～

じっと座ってられない多動や強いこだわりがあったり、コミュニケーションが苦手などに代表される“発達しょうがい”についての知識や周りの人のサポートについて学生に考えてもらうことを目的とし開講した。

「障がい」というより、能力の凸凹の大きさの違いを「個性」とする考え方について講師から説明があり、その後動画を見たりグループワークを行い、理解を深めた。日常生活の中で傍観者側になるのではなく、ともに生きる豊かな人間関係をめざして、学生自身が“発達しょうがい”に対して考え、理解することが必要である。



日 時	10月27日(金) 18:10~19:40
場 所	千里山キャンパス 凜風館4階ミーティングルーム2
講 師	NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事 本学ハラスメント相談員 宮本 由起代 氏
受講者数	9名

【受講生の声】

- 発達凸凹＝発達障がいではないという話の中で、誰もがみんな凸凹を持っているという意識を今まで持っていなかったのが印象的でした。発達障がいの典型的な特徴を知ることができたので、今後どう関わってサポートしていけばいいのかが少し分かった気がしました。
(政策創造・2年次生)
- 私自身が ADHD なので、興味があり参加しました。当事者の過ごしやすいように環境を合わせることも大切ですが、本人が自分の長所を活かせる場所を探す努力も必要と感じました。

7 琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来 事後講座

学生スタッフは定期的に「淀川掃除」を実施しており、環境問題に取り組んでいる。また 2016 年 9 月には、本学創立 130 周年記念事業として当センターで富士山清掃ボランティアを行った。その行程の中で富士山が抱えている環境問題についての講座を行い、参加者の理解が深まった。そして、同年 12 月には環境講座「みんなで考える！環境ミーティング」を行い、参加者が環境問題を「自分事」として捉えてもらうためのワークを行い、講座終了後に淀川掃除を行った。そして、今年度は身近な環境問題を考える場として、淀川掃除 10 周年という節目の年であり、淀川のもっとも大きな水源であり近畿の水がめといわれる琵琶湖岸において、清掃活動だけでなく、環境系のボランティア全般についてその意義と可能性を大学生の目線で考えることを目的とし、ボランティア活動事後講座を開講した。



午前中は琵琶湖古来の植物を枯らし、生態系を破壊する特定外来生物「オオバナミズキンバイ」駆除ボランティア活動を実施し、午後から琵琶湖の環境講座およびワークを行い参加者全員で環境ボランティアの未来を考えた。講座を通して、「オオバナミズキンバイ」が猛威を振るう琵琶湖の現状を知り、琵琶湖の赤野井湾の水質改善や豊かな生態系を取り戻すために一人ひとりが一体何ができるのかを考える機会となった。

日 時	12月17日(日) 13:00~14:00
場 所	滋賀県守山市 みさき自然公園
講 師	認定特定非営利活動法人びわこ豊稔の郷 理事長 金崎 いよ子 氏
受講者数	18名

【受講生の声】

- 外来生物「オオバナミズキンバイ」の繁殖力や琵琶湖の生態系への影響力がいかに強いかを講座を受けて改めて学ぶことができ、生態系を守ることの難しさを学ぶことができました。 (社会・2年次生)
- 講座・ワークでは、外来生物「オオバナミズキンバイ」について丁寧に教えていただき、とてもためになりました。 (文・2年次生)

【活動場所】



【オオバナミズキンバイ】



水陸両生の特定外来生物で、夏季には黄色い花を咲かせる。冬期は低温で大半が枯死するが、生き残った茎断片は発根、再生し次々と芽を出して茎を伸ばす。また、乾いた陸上でも再生するおそれがあり、コンクリート上でも生育する。

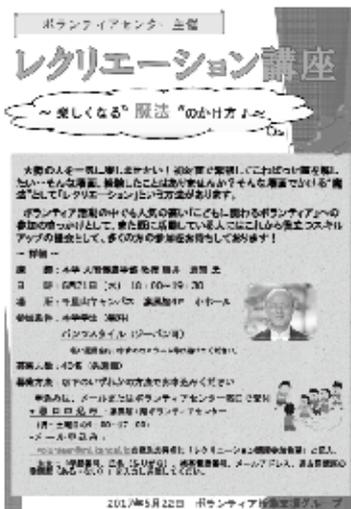
注目

各種講座のポスター

講座・講演会のポスターは、具体的な内容や写真などを入れて学生が興味を引くデザインに工夫しています。



ボランティアセミナー
in 千里山キャンパス



「レクリエーション講座」
～楽しくなる“魔法”のかけ方～



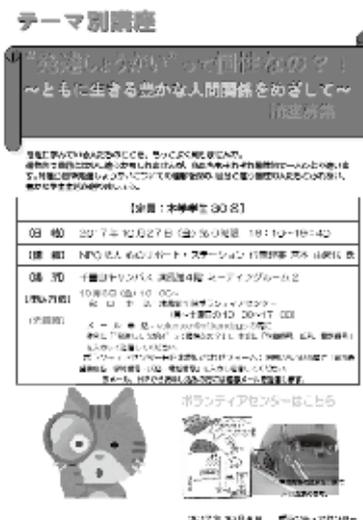
「学習支援」ってなんだろう？
～社会環境と子どもの学び～



災害ボランティア
ガイダンス



コミュニケーション
スキルアップ講座
～学生生活で役立つ
コミュニケーションスキルセミナー～



“発達しようがい”って個性なの？！
～ともに生きる豊かな人間関係をめざして～



ボランティアセンター
学生スタッフ活動記録
2017



まもるくん

ボランティアセンター学生スタッフとは・・・

「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動している団体です。また、学生スタッフは、関大生にボランティアを広めること以外に、ボランティア活動への参加や、学外で行われるボランティアセミナーなどにも積極的に参加しています。

2017年度においては、新たに22名のスタッフが加入し、総勢86名になり、2017年度も充実した活動となりました。

ここからは、そんな彼ら彼女らの活動を感想も含めて紹介します。

2017年度ボランティアセンター学生スタッフ実施事業（年間表）

	全体	大学班	河川班	高槻班	吹田班	明日香・梅田班	広報部	ボラリー	その他
4月	・新入生歓迎行事 (4/3～4/5)	○関大クリーン大作戦 ～千里山キャンパス 周辺の清掃活動～ (4/9) ○関大クリーン大作戦 ～図書館の本の落書き 消し～(4/22)	○淀川掃除 (4/16)				▲4月ボランティア カレンダー作成	▲Volury (vol.32) 発行(4/1)	・花よりボランティ ア！ボランティア フェスティバル 2017(4/10～4/14)
5月			○大和川掃除 in堺(5/21)	○みんなで守ろう！ 蛍の光ボランティ ア(5/13)			▲5月ボランティア カレンダー作成		
6月	○関大×梅田 梅田キャン ドルナイト2017～光のコ ラボレーション～(6/1) ■ボランティアセンター 学生スタッフ養成講座 コーディネート講座 (6/22)				○小学生に防災につい て楽しく学んでもらお う！学童ふれあい ボランティア(6/14) ・吹田市環境美化キャ ンペーン(6/29)				
7月	○平成OSAKA天川伝説 2017ボランティア(7/7)	○関大クリーン大作戦 ～図書館の本の落書き 消し～(7/1)		○関大クリーン大作 戦in高槻(7/5) ※雨天中止			▲7月-8月 ボランティアカレ ンダー作成		
8月	○ヒミツがいっぱい！いろ んな“昔”を見てみよう @キッズミュージアム (8/2～8/3)	○関大の魅力伝える オープンキャンパスボ ランティア (8/5～8/6)		○きれいな摂津峡を 守ろう！摂津峡ク リーニングボラン ティア(8/26)					
9月	■ボランティアセンター 学生スタッフ養成講座 (9/5) ■ボランティアセンター 学生スタッフ養成合宿 (夏)(9/15～9/16)					○飛鳥光の回廊 (9/23～9/24)		▲Volury (vol.33) 発行(9/20)	
10月	■ボランティアリーダー 養成講座「活動引継ぎ 講座～その「引継ぎ」、本 当に引き継げるの？～」 (10/4) ・梅開祭 運営補助ボラン ティア(10/22)	○あなたの勇気が誰 かの命を救う、献血 ボランティア (10/27)	○淀川掃除 (10/22) ※雨天中止		○日用品で子どもたちと 楽しくレツツ工作！ (10/14～10/15)		・大阪マラソン給 水ボランティア 事前説明会に おける学生ス タッフによるボ ランティア紹介 (10/29) ▲10月ボランティ アカレンダー作 成		
11月	○2017学園祭 ～ゴミの可能性を子ども たちに！～ みんなで つくろうエコの学び舎 (11/3～11/5) ○頑張る人を学生スタッフ と一緒に応援しよう！！ ～第7回大阪マラソン給 水ボランティア～ (11/26)		○淀川掃除 (11/12)	○高槻花植えボラン ティア 高槻に咲か す！つなごりの花！ (11/19)	○千里にみんなの光を 灯そう！千里キャン ドルロード2017 ボラン ティア(11/3)				
12月	○まちFUNまつりin関西 大学2017 運営補助ボラ ンティア(12/10) ○琵琶湖ツーリズム！ 関大生で考える環境 ボランティアの未来 (12/17) ○子ども食堂 応援大作 戦！(12/20)	○関大クリーン大作戦 ～千里山キャンパス 周辺の清掃～(12/20)		○新川景観美化 ボランティア～咲 かそう蓮の花～ (12/3)		○関大クリーン大 作戦in梅田 (12/23)	▲12月ボランティ アカレンダー 作成	▲Volury (vol.34) 発行(12/22)	
1月							▲1月-2月ボラン ティアカレン ダー作成		
2月			○第1回大和川 大掃除～力を 合わせて大和 川に輝きと感 動を～(2/18)						・学生スタッフリー ダーセミナー2018 (2/8～2/9)
3月	■ボランティアセンター 学生スタッフ養成講座 (3/27) ■ボランティアセンター 学生スタッフ養成合宿 (春)(3/8～3/9) ・ボランティアセンター 学生スタッフ活動報告会 (3/13)								・第6回学生ボラン ティアと支援者が 集う全国研究交 流集会学生ボラン ティアフォーラム (3/2～3/4)

○：ボランティア体験ツアー ■：各種講座・養成合宿 ・：各種イベント ▲：広報活動

定例の活動

学生の中には「ボランティアに関心があるけれど一歩踏み出せない」という学生がおり、学生スタッフはそのような学生を後押しできるような、さまざまな取り組みを行っている。2017年度においては、定例の活動として4つの取り組みを行った。

1 学生スタッフによるボランティア情報

当センターでは、職員がボランティアコーディネートを行うだけではなく、学生スタッフも立場が同じ関大生にボランティア情報紹介を行っている。学生スタッフがボランティア情報紹介をする時間帯を設け、ボランティアに関心のある関大生の想いを聞き、その人に合ったボランティアを見つけるお手伝いをしている。



2 関大クリーン大作戦 ～図書館の本の落書き消し～

千里山キャンパス総合図書館にて、本の落書きを消すボランティア活動を実施している。この活動は、最も長く継続している活動であり、関大生に学内で気軽に参加できるボランティアとして広まっている。落書きを消しゴムで消すだけではなく、ポスターや落書きを消すことができなかつた本に貼る啓発シールを作成し、落書き防止のための活動も行っている。



日時 4月22日(土) 10:40～12:00
7月1日(土) 10:40～12:00

場所 千里山キャンパス 総合図書館3階 グループ閲覧室

内容 図書館の蔵書の落書きを消し、特に汚れがひどい本には落書き防止の啓発シールを貼る。

3 関大クリーン大作戦 ～大学周辺の清掃活動～

普段利用しているキャンパスの周辺を清掃することにより、気持ちよく関大生が利用することができる。ボランティア活動に初めて参加する学生にとっては、授業の空きコマや昼休み時間に気軽に参加できるボランティアであり、身近な場所の清掃を学生スタッフと交流しながら活動することを目的として実施した。今年度は新たな試みとして、梅田キャンパス周辺でも実施した。



.....

日時	千里山キャンパス	4月 9日 (日) 10:00～12:10	
		12月 20日 (水) ①12:20～12:50 ②12:50～13:40	
	高槻ミュージズキャンパス	7月 5日 (水) 16:30～18:00	※雨天中止
	梅田キャンパス	12月 23日 (土) 10:00～11:30	

場所 千里山キャンパス周辺 (関大裏、関大前通り、名神高速道路沿い)
高槻ミュージズキャンパス周辺 (阪急高槻市駅～JR 高槻駅周辺)
梅田キャンパス周辺 (茶屋町・中崎町)

内容 大学周辺のゴミ拾い

4 淀川掃除 (ボランティア体験ツアー)

淀川河川敷のゴミを拾うことで、大阪湾へゴミが流れ込むことを防ぎ、たくさんの人が淀川を気持ちよく利用できるようにする、環境と景観を保護する活動である。本活動は、毎年たくさんの本学学生が参加し、本学学生にとって「気軽に参加できるボランティア」として親しまれ、2017年11月で累計参加者が**6,700名**を突破した。



.....

日時	4月 16日 (日) 10:00～12:30	
	10月 22日 (日) 10:00～12:00	※雨天中止
	11月 12日 (日) 10:00～12:00	

場所 淀川河川公園 河川敷

内容 淀川河川敷のゴミ拾い

参加者数 延べ77名 (ボランティアセンター学生スタッフを含む) 累計参加者数: 6,790名

学生スタッフの声



今回の淀川掃除では参加者を制限することで、参加者にとってボランティアの満足度を高めることができました。ただ参加者の人数を増やすことを目的とするのではなく、一つ一つのボランティアの意義や魅力をしっかり伝えるということを意識して活動しなければならないと改めて考えることができました。
(文・3年次生)

活動風景

4月～8月

新入生歓迎行事



ミュージアム
キッズ



蛍の光
ボランティア

企画・キャンペーン活動

定例の活動とは別に、学内でのボランティア活動の企画や様々な社会問題の啓発活動を行っている。

1 新入生歓迎行事

新入生歓迎行事で広報活動を行い、新入生や在学生に当センターの認知度を高めることで、ボランティアをより身近なものに感じてもらう。また、現在の事業を継続・発展させるべく新たな学生スタッフの勧誘を実施した。



.....

日時 千里山 4月3日(月)～4月5日(水) 10:00～18:30
高槻 4月3日(月)～4月4日(火)
①8:00～8:55 ②10:00～17:00(4日のみ)

場所 千里山キャンパス 凜風館1階横(悠久の庭前)
高槻キャンパス A棟前

内容 千里山キャンパスではブースを設置し、ボランティアや学生スタッフの活動に興味を持った新入生に対して、ボランティア情報や活動内容の紹介を行った。高槻キャンパスではビラ配布による勧誘活動を行った。

2 花よりボランティア！ボランティアフェスティバル 2017

本イベントは、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであり、2017年度で10回目を迎えた。新入生に本学の魅力的なボランティア団体について知ってもらうこと、また、本学のボランティアの多様性を広報したい、という学生スタッフ及びボランティア団体の思いを込めて実施した。



.....

日時 4月10日(月)～4月14日(金) 10:40～14:30

場所 千里山キャンパス 凜風館1階外(悠久の庭側)

参加団体 ボランティアセンター学生スタッフ、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」、児童文化実践サークル「うぶ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、学生団体「KUMC」

内容 各ボランティア団体の紹介ブース設置及び手話サークル「あっぷる」による手話コーラスのステージ発表を実施した。

3 みんなで守ろう！ 蛍の光ボランティア（ボランティア体験ツアー）

高槻市内で活動している市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の姫蛍の観賞に関するイベントに参加し、ボランティア体験ツアーとして実施した。絶滅危惧種に指定されている姫蛍が生息できる環境が大阪にもあることを知ってもらい、参加者が環境保全の大切さについて考えるきっかけにしよう。また、活動を通して、環境問題とボランティアの関係についても考えてもらうことを目的とし実施した。



.....

【連携先】市民団体「新川姫蛍と花を守る会」

日時 5月13日（土）16：00～21：00

場所 高槻市新川沿い

内容 灯籠のデザイン作成・配置・点火、姫蛍に関する紙芝居の鑑賞、姫蛍に関する啓発ビラの配布、姫蛍の観賞

参加者 一般学生13名、学生スタッフ7名



学生ボランティアの声

普段の生活の中で自然に触れる機会が少なく、自然の中で活動したいと思い参加しました。市民団体の方は自然をととても大切にされていて、蛍の環境を守ろうとの意識が高く感じました。

4 大和川掃除 in 堺 (ボランティア体験ツアー)

当センターでは多岐にわたる体験ツアーを企画しているが、千里山キャンパス、もしくは高槻キャンパス周辺の企画が多く、堺キャンパスの学生には参加しにくい状況にあった。そこで、堺キャンパス周辺を中心に活動するボランティア団体「WEVO」と連携し、より多くの関大生が気軽にボランティアに参加してもらうことを目的とし実施した。当日はゴミの量が多く、やりがいのある活動となった。



日時 5月21日(日) 10:00~11:50

場所 一級河川 大和川 (関西大学堺キャンパス近辺)

内容 大和川河川敷の清掃活動

参加者 一般学生35名、学生スタッフ15名、WEVO13名



学生スタッフの声

今回初めて大和川清掃に参加しましたが、予想以上にゴミの量が多く、とてもやりがいがありました。ゴミの量が多かったからか、清掃活動がとても活気にあふれていていい雰囲気の中で学生同士の交流ができました。
(環境都市工・2年次生)

5 関大×梅田 梅田キャンドルナイト2017 ~光のコラボレーション~ (ボランティア体験ツアー)

2016年に設立された梅田キャンパスとその付近の地域交流、地域活性を目的に、梅田茶屋町エリアでのキャンドルイベント「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」に参加した。今回の活動により、梅田キャンパスが本学学生と社会人との交流の場として多くの人に利用される場所としてアピールすることも目的とし実施した。



日時 6月1日(木) 16:50~21:00

場所 関西大学梅田キャンパス周辺

内容 キャンドルのデザイン作成・配置・点火、
当日の開催アンケートの収集、他団体の運営サポート

参加者 一般学生9名、学生スタッフ5名



6 小学生に防災について楽しく学んでもらおう！学童ふれあいボランティア (ボランティア体験ツアー)

豊津第一小学校の学童の先生方から、今年度も引き続き防災に関わる出し物を、学童への防災教育の一環として行ってほしいとの依頼があった。今回のボランティアへの参加を通じて、地域のニーズに応えるとともに、より多くの学生にボランティアの楽しさや、やりがいを感じてもらうことを目的とし実施した。



日時 6月14日(水) 14:00~16:15

場所 吹田市立豊津第一小学校

内容 防災に関するクイズ、カルタ、紙芝居、集合ゲーム

参加者 一般学生13名、学生スタッフ13名

連 携 事 業

7 平成OSAKA天の川伝説 2017 ボランティア

七夕の夜、人々の願いを託した光の玉「いのり星®」を天の川伝説にゆかりの深い天満橋近くを流れる大川に放流し、川面に「天の川」を創造するイベントに参加した。2017年度は約62,000の方が訪れ、大阪に新たな夏の風物詩として定着した。2014年度から参加し、2017年度で4回目の参加となった。



【事業主体】 一般社団法人 おしてるなにわ

日時 7月7日(金) 18:30~21:00

場所 大川・天満橋～北浜周辺

内容 案内補助及び「いのり星®」放流補助

参加者 一般学生33名、学生スタッフ11名

8 ヒミツがいっぱい！いろんな“昔”を見てみよう@キッズミュージアム (ボランティア体験ツアー)

本学博物館主催のイベント「キッズミュージアム」に参加した。子どもや保護者との関わりの中で、コミュニケーション能力や臨機応変な対応を身に付けることが期待でき、子どもと接する楽しさを感じてもらうことを目的とし実施した。

関西大学と関わりがある奈良県明日香村に係る内容を取り入れ、日本の文化として、昔の衣食住についてのクイズのすごろくや昔遊びの紙相撲・輪投げを通して子どもたちを楽しみながら知識と興味を持ってもらうブースを展開した。



日時 8月2日(水)～8月3日(木) 9:30～16:30

場所 千里山キャンパス 関西大学博物館

内容 衣食住クイズ(すごろく)、昔遊び(紙相撲・輪投げ)

参加者 一般学生9名、学生スタッフ23名

9 関大の魅力を伝える オープンキャンパスボランティア (ボランティア体験ツアー)

本学ではパンフレットやホームページだけではわからない、大学の魅力を伝える高校生に向けたイベントとしてオープンキャンパスを実施している。本企画は入試広報グループからの依頼で、オープンキャンパスで本学を訪れた方々に対して、本学の学生の一員として大学の魅力を伝えることを目的とし実施した。当日は多くの高校生が来場し、オープンキャンパスを盛り上げた。



日時 8月5日(土)～8月6日(日) 9:00～16:00

場所 千里山キャンパス

内容 受付場所での不織布バッグの配布、
当日アンケートの回収及びグッズ配布等

参加者 5日(土) 一般学生10名、学生スタッフ27名

6日(日) 一般学生7名、学生スタッフ28名



学生ボランティアの声

関西大学を目指している高校生達と関わりたいと思い参加しました。来場してくれた高校生の笑顔を見て元気をもらいました。また、他のボランティア参加者達と仲良くなれてよかったです。(文・2年次生)

活動風景

9月～3月



キャンドルロード
千里



学園祭



大阪マラソン



10 学生スタッフ養成合宿(夏)

今回の合宿では、学生スタッフがより活発な団体へと成長していくため、①「団体所属者同士の交流」、②「責任感の重要性について学ぶこと」、③「ボランティアセンターの今後について考えること」の3つを目的とし実施した。合宿を通して、学生スタッフの1人ひとりがボランティアに対する活動意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていくことができるよう実施した。



日時 9月15日(金)～9月16日(土)

場所 飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者 60名(岡本所長、松村副所長、鈴木次長、堀グループ長、村上、学生スタッフ55名)

連携事業

11 飛鳥光の回廊 (ボランティア体験ツアー)

明日香村で毎年行われている、石舞台古墳をはじめ岡寺や飛鳥寺など、明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、20,000本を超えるろうそくの明かりで彩るイベント「飛鳥光の回廊2017」に参加した。

学生ボランティアがキャンドルデザイン会議から参加することで、他の活動では得られない大変さや、それによって得られる達成感を感じてもらう。また、明日香村を散策することによって、歴史や文化的価値を学んでもらった。



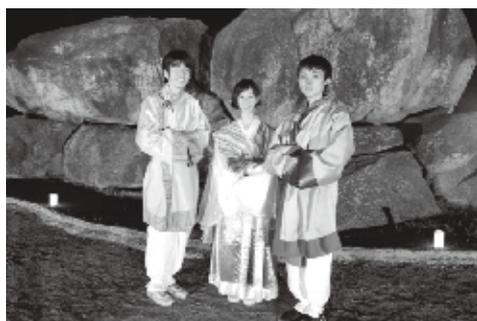
**【連携先】 奈良県明日香村
(関西大学地域連携センター)**

日時 9月23日(土)～9月24日(日)
10:00～20:00

場所 奈良県明日香村 石舞台古墳

内容 23日(土) 灯笼のデザイン作成・配置・点火、
24日(日) ろうそくを入れ替え点火・撤去、明日香村散策

参加者 23日(土) 一般学生6名、学生スタッフ11名
24日(日) 一般学生10名、学生スタッフ23名



12 日用品で子どもたちと楽しくレッツ工作！ (ボランティア体験ツアー)

吹田市の浜屋敷の職員の方々から、日常的に電子ゲームで遊ぶ子どもたちに、液晶画面から離れ、さまざまな体験をして知識を広げてもらうために、手作り体験ブースを出してほしいとの依頼があり、「伝統工芸&手づくり市」に参加した。地域のニーズに応えるとともに、子どもたちと一緒に工作をすることで、ものづくりの楽しさを伝え、地域活性化に貢献できた。



日時 10月14日(土)～10月15日(日) 10:00～16:00

場所 吹田歴史文化まちづくりセンター浜屋敷

内容 声変わりマスク作り・ぐるぐるゴマ作り

参加者 14日(土) 学生スタッフ4名

15日(日) 一般学生1名、学生スタッフ5名



13 あなたの勇気が誰かの命を救う、献血ボランティア (ボランティア体験ツアー)

本学では年に1回防災訓練と合わせて学生の防災意識を高めるイベントを開催しており、今年度も「関大防災 Day2017～広がれ！みんなの安全・安心！～」を開催した。本企画は防災 Day のブースのうち、献血推進ブースにおいて献血への啓発を目的とし実施した。

本活動を通し献血についての知識を深めると同時に、今後も開催される献血活動への定期的な参加に繋がることを期待している。



日時 10月27日(金) 12:20～16:10

場所 千里山キャンパス 悠久の庭前

内容 献血の呼びかけ

参加者 一般学生3名、学生スタッフ12名



学生スタッフの声



このボランティアを通して献血に対する意識が変わりました。日本赤十字社の方が「明日から台風の影響で血液が不足しがちなのでご協力お願いします」と言われていて、普段医療のことについて考える機会がない分、こうしている今でも助けを求めている人がいることが印象的でした。(法・2年次生)

14 2017 学園祭～ゴミの可能性を子どもたちに！～みんなでつくろうエコの学び舎 (ボランティア体験ツアー)

本学統一学園祭には、親子連れや子どもが多く来場するため、子どもを対象として「環境」、とりわけ「エコ」という観点から、遊んで学べるブースを設けた。統一学園祭に来訪される保護者の方や地域の方及び本学学生に、ボランティアの魅力と我々の活動を知ってもらうことに注力して取り組んだ。



日時

11月3日(金)～4日(土) 10:00～16:00
11月5日(日) 10:00～14:30

場所

千里山キャンパス 凜風館1階 学生ラウンジ

参加者

3日(金) 一般学生6名、学生スタッフ32名
4日(土) 一般学生4名、学生スタッフ35名
5日(日) 一般学生2名、学生スタッフ44名



企画内容



①釣って学ぼう！捨てられたゴミはどうなるの？

内容

釣り堀の中から釣ってもらったゴミが再利用によってどのような物に生まれ変わるのかを説明し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)について学んでもらう。



②クイズ&分別ゲーム

内容

吹田市の条例に基づいた身近なゴミ分別についての三択形式のクイズをした後に、ゴミの分別をゲーム形式で行う。



③大変身！！ものづくりFACTORY

内容

①ペットボトルで作るペン立て②牛乳パックで作る貯金箱③空き箱で作る本のしおりを子どもたちと一緒に工作し、作品を持って帰ってもらう。

15 千里にみんなの光を灯そう！千里キャンドルロード 2017 ボランティア (ボランティア体験ツアー)

千里ニュータウンの人口と同じ 9 万個のキャンドルに灯をともしイベント「千里キャンドルロード 2017」に参加した。

2014 年度から参加し今回で 4 回目の参加となり、ボランティアを通じて地域の方々と交流し、吹田市と豊中市にまたがる千里ニュータウンの地域活性化に貢献した。学生ボランティアにキャンドルのデザイン会議から参加してもらうことで、ボランティアのやりがいや楽しさを感じてもらうことを目的とし実施した。



日時 11月3日(金) 10:00 ~ 21:00

場所 大阪府豊中市 千里中央公園・東町

内容 キャンドルの色付け、デザイン、作成、設置、点火、片付け

参加者 一般学生 13 名、学生スタッフ 12 名



学生ボランティアの声

友人の紹介でこのボランティアを知り、地域の方ももちろん関大生と交流できる良いきっかけだと思い参加しました。みんなで 1 つのものを作り上げることが楽しく、達成感がありました。(文・3 年次生)

連携事業

16 高槻花植えボランティア 高槻に咲かす！つながりの花！ (ボランティア体験ツアー)

高槻市で自然と共生する「花と緑のまち」づくりに寄与することを目的として活動する高槻景観園芸クラブの活動に参加した。

地域の方との交流を通して、学生ボランティアに環境美化、地域交流の必要性を学んでもらうことを目的とし実施した。また、活動中に地域の方から声をかけていただき、高槻エリアでの当センターの活動の周知にもつながった。



【連携先】 NPO 法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブ

日時 11月19日(日) 10:00 ~ 12:00

場所 JR 高槻駅前

内容 高槻市から提供されたパンジーとビオラの花を花壇に植える

参加者 一般学生 4 名、学生スタッフ 7 名



17 頑張る人を学生スタッフと一緒に応援しよう！！ ～第7回大阪マラソン給水ボランティア～

本学がオフィシャルスポンサーとして参加する「第7回大阪マラソン」に給水ボランティアとして参加した。当日は本学学生 400 名が給水ボランティアとして携わり、その内の約 100 名が当センター学生スタッフと一般学生であり、5 ブースを担当し活動を行った。2017 年度は「みんなでかける虹」というスローガンのもと、32,000 人のランナーをサポートした。

給水や応援などを通して、直接ランナーの方と関わることができるので、参加した関大生にも、よりボランティアの楽しさやスポーツの魅力を感じてもらえる活動となった。



日時 11月26日(日) 7:30～13:30

場所 大阪マラソン第1給水所(5km地点・千日前東ブロック)

内容 給水所でのランナーへの給水サービス活動

参加者 一般学生 67名、学生スタッフ 29名



学生スタッフの声

一番先頭の給水所だったため、ランナーの方が殺到し給水作業に追われ大変でしたが、ボランティア参加者は常に笑顔を絶やさずに活動していたように感じました。ランナーの方々から僕らに「ありがとう」と声をかけてくれたので、良いモチベーションになりました。

(法・2年次生)

18 新川景観美化ボランティア ～咲かそう蓮の花～

(ボランティア体験ツアー)

高槻市を流れる新川では、美しい蓮畑があるが、蓮の根が増えてしまい、川の流れをせき止めて、蓮の生育を阻害してしまっている。そこで、新川沿いの景観を美しく保つために泥を取り除き、蓮の根を間引くことで、水の流れを良くするという活動に参加した。

新川沿いをいつもきれいにしている地域の方々と交流をしながら、環境保全について考えてもらうきっかけとなった。当日は日常生活では着る機会のない胴長を着衣しての作業に苦戦しながらも、ボランティア同士で協力しながら活動した。



【連携先】 市民団体「新川姫虫と花を守る会」

日時 12月3日(日) 10:30 ~ 13:00

場所 高槻市新川沿い 蓮畑

内容 蓮根の間引き、泥運搬

参加者 一般学生4名、学生スタッフ9名

19 まちFUNまつりin 関西大学 2017 運営補助ボランティア

(ボランティア体験ツアー)

NPO 法人関西大学カイザーズクラブ及び NPO 法人ママふぁん関西との共催イベントに、①サイエンスセミナー補助ボランティア②子どもの職業体験の補助ボランティア③ミズノ流忍者学校の補助ボランティアの3つの運営補助ボランティアとして参加した。学生にとって、日常あまり接することのない子どもやその家族の方との貴重な交流の場となった。

日時 12月10日(日) 10:00 ~ 16:00

場所 関西大学 千里山キャンパス全域

内容 サイエンスセミナー・子どもの職業体験・
ミズノ流忍者学校の補助・その他運営補助ボランティア

参加者 一般学生7名、学生スタッフ20名



20 琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来

学生スタッフは定期的な「淀川掃除」や、年に一度 500 人という大規模に取り組む「淀川大掃除」を実施するなど、多くの方にボランティアへ参加してもらう機会を創出することで、ボランティアの魅力を伝えると同時にゴミ問題に対する啓発を行ってきた。そして、淀川掃除の体験ツアー化 10 周年という節目の年に「清掃」だけでなく、環境系のボランティア全般についてその意義と可能性を大学生の目線で考えるため、琵琶湖の環境保全活動に取り組む「認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷」が実施する赤野井湾・小津袋クリーン大作戦に参加した。

活動では、参加者が一丸となり、特定外来生物オオバナミズキンバイの駆除やゴミ拾い等に取り組んだ。活動後には当センターを対象に、びわこ豊穰の郷 理事長 金崎いよ子 氏より琵琶湖の環境についてご教授いただき、環境ボランティアの未来を考えるワークにも取り組んだ。参加者にとって、今回のボランティアが琵琶湖だけではなく、身近な環境問題を考えるきっかけとなることを願っている。



【連携先】 認定 NPO 法人 びわこ豊穰の郷

日時 12月17日（日）8：30～16：35

場所 滋賀県琵琶湖岸一帯及びびみさき自然公園

内容 滋賀県琵琶湖岸での特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動、活動後に琵琶湖環境についての講座・ワーク

講師 認定特定非営利活動法人びわこ豊穰の郷 理事長 金崎いよ子 氏

参加者 一般学生 7 名、学生スタッフ 10 名、職員 4 名（ボランティア 1 名・ボランティアセンター 3 名）



学生スタッフの声

日本一大きい湖である琵琶湖の生態系を守るために、他団体のボランティア学生と一緒に声を出しながらアクティブに活動することができ、とても楽しい活動になりました。

（文・2 年次生）

21 子ども食堂 応援大作戦！ (ボランティア体験ツアー)

地域でのつながりが希薄になりつつある、と昨今叫ばれているが、「子どもたちの孤食を防ぐ」という目的のもと、「子ども食堂」が日本全国に急速に広まっている。堺市でも子どもたちの居場所作りとして月1回「子ども食堂」の取り組みが実施されている。

堺市には本学の堺キャンパスがあり、地域に根ざしたボランティア参加を促すとともに、「子ども食堂」の現状や、どのような想いで運営が行われているのか、どれほど子どもたちにとって大切な居場所となっているか、を知ってもらうことを目的としボランティア体験ツアーとして実施した。



.....

日時 12月20日(水) 17:00 ~ 20:00

場所 堺市内 子ども食堂

内容 子どもたちが食べる食事の配膳サポート、子どもたちとの交流

参加者 一般学生2名、学生スタッフ1名

22 第1回 大和川大掃除 ～力を合わせて大和川に輝きと感動を～

「ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～」が 2011 年 1 月 21 日付で国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所より「淀川サポーター」として認定された。また 2007 年度から始まり、2011 年度で 5 年目を迎えたことから、記念事業としてミズノ株式会社及び体育会本部などの協力を得て、淀川大掃除を 2016 年度まで実施してきた。

淀川大掃除に続くイベントとして、初の試みとして本学堺キャンパス付近を流れる大和川を約 300 名の参加者ととも清掃活動を実施した。

今年度も、より多くの関大生にボランティア活動のやりがいや楽しさを伝えることができ、また本学との連携協定を締結しているミズノ株式会社と協力し、ボランティア活動を通じて双方の発展と充実に寄与できた。



【連携先】 ミズノ株式会社

目的

ボランティアに参加したことがある学生はもちろん、ボランティアに参加したことがない学生や、あまり興味を持っていない学生にも「普段関わらない人と交流できることの楽しさや、大人数でひとつのことを成功させる達成感や一体感」に気付いてもらう機会とする。また、清掃活動を通し大和川のゴミの現状を知ってもらうことで、環境問題への気付きを促し、本学が拠点を構える、大阪をより良い街にすることを目的とし実施した。

日時

2月18日（日） 10：00～12：00

場所

大和川河川敷公園

共催

関西大学、ミズノ株式会社

協力団体

体育会本部、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

参加者

総勢約300名

（本学学生・併設校生徒約250名と関係者30名、ミズノ株式会社 社員約20名ほか）

ゴミの回収量

燃えるゴミ57袋・燃えないゴミ74袋・ペットボトル14袋 合計 145袋



学生ボランティアの声

少しでも社会貢献になるような活動をしたいと思い参加しました。ゴミを拾って分別する際に、他の人に声をかけてゴミ袋に入れるためコミュニケーションが図れて楽しかったです。また、学生スタッフが気軽に声をかけてくれて嬉しかったです。
（政策創造・3年次生）

23 学生スタッフ養成合宿(春)

春合宿では、学生スタッフがより活発な団体へと成長していくため、①「今までの活動を振り返る」、②「実現可能なボランティアを考える」、③「新1回生に対してボランティアセンターがどのような団体なのかを知ってもらう」この3つを目的とし実施した。

合宿を通して、学生スタッフの一人ひとりがボランティアに対する活動意欲を高め、これからの活動をより良いものにしていく有意義な合宿となった。

.....

日時 3月8日(木)～3月9日(金)

場所 飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者 33名(堀グループ長・村上・三浦、学生スタッフ 30名)



7 学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表
2017年度代表 2年次生 武市 広紀



私は2017年度代表を務めさせていただいています。

およそ2年間学生スタッフとして活動するなかで気づいたことがあります。それは「ボランティアは人をつなぐ」ということです。ボランティア活動に参加する関大生の動機は多種多様であり、「本格的なボランティアに参加したいと思った」「今まで参加したことがなく、興味が湧いて参加した」などの意見があるなかで、最も多くの動機が「友達が欲しい」「地域の方と繋がりをもちたい」といった、人との関わりや繋がりを求めたものでした。

普段の大学生活やアルバイト、サークル活動など、新入生のころは何もかもが新鮮で清々しく、日常に“ハリ”を感じられていたはずなのですが、次第にマンネリ化し、飽きが出てきて、毎日何か物足りなさを感じずにはいられないようになってきます。ただ、それはおおよそ仕方のないことであり、むしろ毎日新鮮さを抱ける人はそう多くないかと思います。しかし、だからといって諦めてしまうことは、とてももったいないような気がします。そ



んな気持ちを払拭させてくれるのが、まさしくボランティア活動ではないかと思うのです。普段味わえないような地域に密着した活動への参加や清掃活動のなかで、人と人の繋がりが感じられることは、ボランティアの大きな魅力だと考えます。

私たち学生スタッフは、ボランティア活動に参加していただいた関大生はもちろん、今後活動に参加して下さる関大生にも、そういった魅力を届けたいという思いで日々活動に取り組んでいます。

社会問題や災害などにおいてボランティアは度々話題となり注目されています。そこには常に「人と人の繋がり」が垣間見えます。これまでのボランティアに対する考えや意見が徐々に変化している昨今、ボランティアはさらに意義あるものであり、とりわけ活動において人と関わり合える所に一番の意義があるように思います。これまで行ってきた活動の充実化、新しい取り組みへの積極的な挑戦、関大生への広報の姿勢を持ち、学生スタッフ一同、そして職員の方と共に一丸となり今後も活動を展開していきたいと思っています。



8 学内ボランティア団体への支援

ボランティア団体版



学内ボランティア団体への支援

1 大学としての危機管理～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体（届出団体）に対して、活動の安心安全を確保するために「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボランティア（地域貢献）活動を依頼することもあるため、学生の経済的負担を軽減するために保険加入相当額を助成している。

助成団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」
------	--

2 ボランティアセンター学生スタッフと学内ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的にミーティングを実施している。このミーティングを行うことにより、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。また、ボランティア団体の活動を知ってもらうために紹介冊子『COLORS』を作成し、関大生にボランティア団体の活動をPRした。

開催日時	5月8・29日、6月16日、10月6日、12月8・22日、1月12日、2月2・9・23日、3月2・16日（全12回） 12：20～12：50、長期休暇中のみ13：00～14：00
場所	千里山キャンパス 凜風館4階 会議室1
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」

学生の声

学内ボランティア団体との共同企画は普段関わることのできない人たちと関われるので、私たちにとって良い刺激になっています。これからもこのような共同企画を続けていきたいです。

（学生スタッフ 2年次生）

3 花よりボランティア！ボランティアフェスティバル 2017

本イベントは、関大生に大学内のボランティア団体について知ってもらおうと共に、各団体の新入部員獲得を目的に 2008 年度から実施し、2017 年度で 10 回目となる。各団体の説明ブースには、ボランティアに関心のある学生が多数訪れ、関大内のボランティア団体と繋げることができた。イベントの中では、手話サークル「あつぷる」が凧風館内の大型モニターを使い、映像と手話で歌を表現する



手話歌を披露し、関大生に手話の魅力をアピールするなど、団体の活動を実際に披露する場も設けられた。本イベントを通して団体同士で交流も図ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

実施日時	4月10日（月）～4月14日（金）10：30～14：30
場 所	千里山キャンパス 凧風館1階外（悠久の庭側）
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あつぷる」、児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」

2017年度の学外助成の実績

学外助成金

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動の振興のための助成を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成金の案内を学内ボランティア団体に情報提供を行ったうえで推薦し、助成が受けられるよう支援している。今年度は以下のとおり助成金が支給された。

助成団体：一般財団法人 学生サポートセンター

推薦団体：関西大学ボランティアセンター 学生スタッフ

助成額：100,000円

活動内容：ボランティアセンター学生スタッフは、ボランティアをするだけでなく本学学生にボランティアを広めるという理念の下に、ボランティアの企画運営をする活動を行っている。他にも、本学学生にボランティアの第一歩を踏み出してもらいたいという思いからボランティアコーディネートも実施している。



助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

推薦団体：「WEVO」

助成額：20,000円

活動内容：堺キャンパス唯一のボランティア団体として幼稚園訪問活動、河川清掃活動、町内清掃活動等の幅広い分野のボランティア活動を定期的に行なっている。今後は活動の幅を広げ、人間健康学部で学んでいることを活かし、高齢者施設訪問活動や介護施設訪問活動にも取り組みたいと考えている。



助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

推薦団体：文化会「ユネスコ研究部」

助成額：20,000円

活動内容：主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っており、月に1回、吹田市内の小学生と一緒に活動をする「スクール」がある。また、夏休みには過疎地といわれるような場所にある小学校に伺い、2～3日に渡って現地の小学生と交流・活動する「夏合宿」を行っている。



社会貢献を行う学内ボランティア団体の紹介

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が寄せられている。2017年度は12件のボランティア依頼を受け付けた。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

1 手話サークル「あっぷる」

目的

聞こえに関わらず、楽しむことを大切にしながら、日々手話の学習や手話エンターテイメント（手話歌・劇）などの練習を通して、表現力とは何かを意識し、その向上に取り組んでいる。学園祭では、それらを発表することで手話の普及、イメージチェンジなどを図っている。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っている。

内容

毎週2回、手話の学習会に行っている。加えて、手話歌や劇などの発表では、団体としての統一感を意識しながら、色々な人たちに活動の成果を見てもらう機会を設けている。さらに、他団体との交流会で施設の準備から考えたり、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外にも活動の幅を広げている。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会い、今までにない経験を積むことができるよう、取り組んでいる。

【主な活動】

- ・ 関西大学主催手話交流会
- ・ 学園祭での手話劇・歌発表
- ・ 声なし合宿
- ・ With Festa（手話歌発表会）



活動者の声

○活動全体を通して

僕が手話と出会ったのは2回生の初めの頃。友人が手話サークルに入っているというのを聞いて、手話ってどういうものなんだろう？と気になって入部しました。2回生の途中から入ったのでついていけるか心配でしたが、優しい先輩や同回生の皆さんに教えてもらい、ある程度まで手話で会話できるようになりました。また、あっぷるでは他大学との交流会が何回かあるので、交流の輪が広がります。夏にある合宿では、声なしで過ごすので手話力を伸ばすことができました。学園祭で発表する手話コーラスの練習や体を思いっきり動かすスポーツ企画など、楽しい3日間を過ごすことができました。

（法・3年次生）



あっぷるん

2 児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的

吹田市内の学童訪問や長期休みを利用した小学校への訪問、地域行事などで子どもたちとふれあい、その関わりを通じて私たち自身も成長したいと考えている。

内容

毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露したり、ドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを通じて子どもたちと交流をしている。

【主な活動】

- ・ 毎週水曜日の学童訪問
- ・ 夏合宿（大阪府以外の小学校へ泊りがけで訪問）
- ・ チルドレンコンサート（普段訪問している学童の子どもたちを招待し、演劇を披露する）
- ・ 公演（地域行事への参加など）



活動者の声

○夏合宿

夏合宿では、普段の活動では訪問することのない他府県の小学校に行き、1日を通して子どもたちと遊んだり、人形劇や紙芝居などを披露しています。子どもたちと遊べる時間も長く、あかとんぼと子どもたちと一緒にいるゲームもたくさん提案でき、毎年内容の濃い活動になります。子どもたちにとっても、あかとんぼにとっても貴重な経験になるイベントです。

(社会・3年次生)

○チルドレンコンサート

チルドレンコンサートは、普段訪問させていただいている学級の子供たちを招待し劇を披露するイベントです。子どもたちに楽しんでもらうことを目的に、1・2年生を中心に全員が協力してイベントを作り上げていきます。あかとんぼのメンバー同士の絆を深めることができるだけでなく、運営するにあたって自分で考える力を養うこともできます。

(政策創造・2年次生)



ピロンくん

3 児童文化実践サークル「うぷ」

目的

児童文化の啓発と発展に寄与し、吹田市に限らず、社会に貢献できることを目的としている。活動中での交流を通して子どもを楽しませることはもちろん、私たちも活動を楽しむことを基本とし、子どもの成長だけでなく自分たちの成長にもつながるように活動に取り組んでいる。

内容

毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、うぷのプログラムであるペープサート（紙の人形劇）、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露している。また、その他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして1日間公演を行う合宿公演や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行っている。

【主な活動】

- ・新入生歓迎会
- ・千里第二子どもカーニバル
- ・学童保育訪問
- ・夏合宿公演
- ・学園祭
- ・KU シンフォニーホールでのイベント開催



活動者の声

○イベント

毎年3月に、普段学童保育訪問でお邪魔している子どもたちをKUシンフォニーホールに招待し、イベントという形で公演を行っています。他の活動と比べて1ヶ月と長い練習期間を設けており、また1・2回生のみで公演を行うので上下間での絆がよりいっそう深まります。子どもたちも毎年楽しみにしてくれており、やりがいや喜びを感じられます。

○夏合宿

夏休みに大阪府外の小学校に行き、合宿公演を行います。今年度は和歌山県の小学校へ伺い、子どもたちと交流しました。子どもたちの笑顔や、「楽しかった」などの嬉しい一言が聞け、準備や練習を重ねてきて本当に良かったと感じました。



ぱんぐーちゃん

4 ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を活動目的としている。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することを目指している。

内容

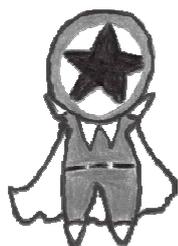
視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障害者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容である。また、子どもとふれあうボランティアや24時間テレビの募金活動も行っている。

【主な活動】

- ・視覚特別支援学校での活動
 - ・24時間テレビ募金活動
 - ・吹田こどもまつり
 - ・障害者福祉施設「ゆうゆう会」での活動
 - ・「まちつく」への参加
- ※「まちつく」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる
夏休みの小学生向けワークショップ



活動者の声



チャレンジャーマン

○風船バレー

風船バレーはその名のとおりに、1チーム6人の2チームに分かれて風船でバレーボールをするスポーツで、身体障がいのある方々と一緒に活動しています。6人全員が1回ずつ風船に触れたら相手コートにかえすというルールですが、声かけやチームワークがとても大事で、いつも白熱しています。スポーツを通じて、障がいのある方々とたくさんコミュニケーションをとることができ、また一緒に楽しむことで笑顔になれるので、いつも充実した活動になっています。(化学生命工・3年次生)

○ゆうゆう会

ゆうゆう会では月に一度、障がいのある方と一緒に、学生がお手伝いをしながらお出かけをしています。例えば、京都水族館や神戸ポートアイランドにも行きました。当初は介助と聞いて難しく考えていたのですが、全くそんなことはなく、むしろ障がいのある方の嬉しそうな顔を見ていつも元気をもらっています。この活動では様々な場所に行くことができるので毎回楽しみにしています。(法・3年次生)

5 文化会「ユネスコ研究部」

目的

ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っている。子どもたちには、普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさと集団行動の大切さを学んでもらうことが目的である。また、子どもたちとともに行動することにより、部員の行動力や責任感を培い、新たな成長につなげていくことも目的の一つである。

内容

吹田市在住の子どもたちと月に一度交流する「スクール」を中心に活動している。「スクール」では運動や料理、工作など様々な活動をしたり、遠足や宿泊学習を行っている。その他には、吹田市を中心に地域イベントの運営補助や企画、清掃活動などのボランティア活動にも取り組んでいる。

【主な活動】

- ・スクール
- ・吹田ハロウィンパレード
- ・文化フェスティバル
- ・過疎地の子どもたちと交流
- ・ハロハロ SQUARE



活動者の声



ゆねもん

○活動全体を通して

子どもたちと遊ぶことを通して、より充実した時間を過ごす事ができます。元気いっぱいにはしゃぐ子どもたちを見ていると、子どもの頃のやんちゃだった自分を思い出し、今まで育ててくれた両親に感謝すべきだと思い、自分を見つめ直そうと思いました。

(政策創造・1年次生)

○活動全体を通して

元気に遊んでいる子どもたちの笑顔を見ると、とても可愛らしくて、この子たちがもっと楽しめるような遊びを企画したいと思い、より熱心に活動したいと思いました。

(法・2年次生)

6 学生団体「KUMC」

目的

地域の子どもを中心として地域に向けて防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着形の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こったときに、自分たちが伝えた内容が活かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて企画運営や警備のボランティアなどに参加することで、地域を盛り上げるお手伝いをするなどの地域貢献活動にも取り組んでいる。

内容

地域の小学校における防災授業など、様々なイベントに参加し、自作のパワーポイントやゲームを通して防災知識を楽しく学んでもらえるよう取り組んでいる。活動の中で、災害時に子どもたちが自分自身を守ることができるように、より多くの知識をわかりやすく伝える工夫をしている。地域貢献活動では、高槻市や茨木市、吹田市エリアを中心に様々なボランティアイベントに積極的に参加している。また、春と夏には自分たちの学習の一環も兼ねて東北を訪れ、現地の語り部の方からお話を聞いたり、津波の到達地点に桜の木を植えて後世に伝える「桜ライン 3.11」という活動にも参加している。

【主な活動】

- ・ 小学校での防災授業
- ・ 図書館での防災絵本の読み聞かせ
- ・ 防災ゲームや防災グッズの考案・作成
- ・ 地域のイベントでのボランティア



活動者の声



くまっく

○防災教育

高槻市内の小学校を中心に、災害や事故から身を守る方法を伝える防災授業を行なっています。非常用持ち出し袋の中身を子どもたちに見せたり、小学校周辺の写真から危険な場所を考えてもらうことにより、子どもたちが防災や交通安全を身近に感じてもらえるような授業作りに励んでいます。子ども目線での防災の観点は、大学生である我々が気づけなかったニーズ・気づきの発見もあるので、お互いに学習できる場となります。子どもたちと一緒に「KUMC」メンバーが成長できることは大きな魅力です！
(社会安全・3年次生)

○地域イベント

3つの地域の代表的なお祭りに参加し、地域を盛り上げる活動をしています。お祭りの実行委員の方とKUMCのメンバーをつなげる役割もしており、お祭りの会議に出席し、当日だけでなく事前準備やお祭り開催後もサポートしています。お祭り当日には、参加したメンバーと心を1つにして活動するための統率力が鍛えられ、まわりを見て状況判断をしたり、優先順位をつける力が養われました。
(社会安全・3年次生)

7 「WEVO」

目的

ボランティアサークル「WEVO」は、「私たちにできるボランティアを楽しく行う」という目的のもと活動している。また、活動する際に①地域との繋がりを大切にする②事業所と連絡を取り合い、調整や企画を行うことにより良い関係を築く③ボランティア先での交流や経験を通し様々なことを学ぶ、という3つの点を意識して活動している。

内容

主な活動は毎月第1土曜日の子ども食堂と大和川清掃、幼稚園訪問である。大和川と幼稚園は堺キャンパスから歩いて行ける距離にあり、地域に根ざした活動となっている。子ども食堂では開催地の事業所にて地域の子どもたちを呼び寄せ、遊びや勉強、昼食を共にする活動を行なっている。

【主な活動】

- ・子ども食堂
- ・大和川清掃
- ・マラソンボランティア
- ・幼稚園訪問



活動者の声

○活動全体を通して

サークルメンバーにボランティアを身近に感じてもらうため、頻繁にボランティアの募集を呼びかけ、あくまで強制せず自分が興味を持った内容の活動に参加してもらうことで、楽しく気軽にボランティア活動ができる自由なサークル作りを心がけています。

(人間健康・3年次生)



オタノシミン

各団体の代表者の声

手話サークル「あっぷる」

渉内：中川 彩葵

手話にはもともと多少の興味があるというだけでした。あっぷるに入った主たる理由は好奇心です。それまで手話を必要とする環境にいたことはなく、興味本位で所属しました。あっぷるの活動に参加するうち、実際に手話で話す方々と会い、交流することで、手話というものが少しずつわかってきたように思います。先輩方はもちろんのこと、同回生の皆も手話のレベルが高く、スムーズに会話を楽しむ様子を見て、自身の力不足を痛感することも多々あります。自分の手話は本当に通じているのか、相手の言いたいことをきちんと読み取れているのか、悩みは尽きません。ですが、実際に手話を用い、手話だけで話す機会も多いのがあっぷるです。活動中だけでなく、取り留めのない雑談に興じる間も手話を表すことで、わからない表現を尋ね、繰り返し教えてもらうことも容易です。手話だけを学ぶのではなく、普段の会話のなかで無理なく手話を学んでいると思います。



児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

代表：七井 巧

吹田市の学童では、2017年度から4年生以上の子どもたちも受け入れを始めたため、今後、高学年の子どもが増えていく見込みですが、これまでのプログラムは低学年向けのものばかりで、とても高学年が楽しめる内容とはいえないものもあります。私たちは学童の子どもたち全員に楽しんでもらうことを1つの目標にしているため、子どもたちに楽しんでもらえるようなアイデアをメンバーで出し合い、試行錯誤を繰り返すことでこの問題を解決していかねばなりません。現在14学級に訪問させていただいていますが、それぞれの学童で方針は異なり、子どもたちの雰囲気も全然違います。そのため、全ての学級で同じように活動するのではなく、1つ1つの学級によって、サポートの仕方、注意の仕方など子どもへの接し方を変えていく必要があります。それ以外にも訪問中に起こった出来事や活動を通して浮かび上がった問題点にうまく対処できるように、今後もサークルメンバー一同精進していきます。



児童文化実践サークル「うぶ」

代表：上穂 海生

私たちは活動を通し、子どもたちと交流する機会をいただけていることに感謝しています。子どもたちと関わる中で、たくさんの反応がかえってきます。3年間お伺いしている学童保育学級の子どもたちの中には、学年が上がるたびに好きな遊びが変わっていたり、漢字が書けるようになっていたり1人ひとりの成長を感じることができます。私たちも子どもたちと更に楽しく交流できるよう、練習と反省会をし、試行錯誤しながら成長していきたいと日々活動に取り組んでいます。学童保育学級への訪問、イベント行事を通して、子どもたちの楽しそうな笑顔が見られることを楽しみに、これからも私たちは進歩し続ける団体でありたいと考えています。うぶを支えてくださる方々への感謝を忘れず、今後も活動が有意義なものになるよう、精一杯努力を続けていきます。



ボランティアサークル「チャレンジャー」

代表：崎田 雅稔

チャレンジャーの代表を2年以上務めており、ますますこのサークルの活動にやりがいと楽しさをととても感じています。昨年よりもさらに障がいのある方々とのコミュニケーションの取り方や、どのようにしたら楽しんでいただけるかなどを深く考え学ぶことができ、また先輩方からさらに詳しく教えていただけるので、日々とても充実しています。障がいのある方々とお出かけしたり、ゲームをすることは自分自身も楽しく、また喜んで笑ってくれている姿を見ると、とても嬉しくやりがいを感じます。みんなで劇やゲームを考える時は、楽しんでくれるか不安になったりもしますが、笑顔になってくれている姿を想像すればとても頑張れます。僕も上回生になり、後輩も入ってきたので、今まで先輩に教えてもらってきたように、次は僕が後輩にボランティアのやりがいや楽しさをたくさん伝えていきたいと思います。



文化会「ユネスコ研究部」

代表：吉田 武弘

私は子どもたちと遊ぶことが好きで、ユネスコ研究部に入部しました。入部する前は、子どもたちと遊ぶことに注力した部活だと思っていましたが、ユネスコ研究部の理念の「心の中に平和の砦を」という目的に沿って、活動していることを知りました。私は子どもとの関わりの中で、子どもたちに人を思いやる気持ちの大切さに気付いてもらい、自然と人に寄り添える人間になってもらいたいと思っています。また、活動を通して、子ども同士の関わりを持ったり、他学年の人たちとも話ができるようなコミュニケーション能力を高め、培ってほしいと思います。そのための一環として、毎年キャンプや遠足を行っています。私のこの想いはユネスコメンバーも同じだと思います。



出会う子どもの中には、人と話したり、自分の思いを表現したりするのが苦手な子も多くいます。活動中は子どもたちを見守ることも大切ですが、子どもたちが揉め事や交流を通して人の思いに寄り添い、自分の思いを言葉にできる、思いやりのある子に成長する一助となるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

学生団体「KUMC」

代表：川口 優花

私はKUMCでの活動を通して、たくさんの方に出会いました。いつもキラキラした目で真剣に防災の出前授業を聞いてくれて、休み時間にはすぐに仲良くなって抱き着いてくれるような元気な子どもたち、防災ゲームで本当に楽しく学んでくれたり、新聞スリッパやコップを作って嬉しそうに持って帰ってくる子どもたち、子どもたちに付き添いながら、真剣に優しく聞いてくださる保護者の方たち、イベントで出会う頼もしいボランティアの皆さん、私たちを支えて応援して下さる方々・・・本当に励みになり、すべての出会いに感謝しています。活動を通して広がる輪が見えた時、温かい気持ちになります。私は、KUMCでの活動が本当に心から大好きで、1つ1つのボランティアが大切です。優しく頼もしい先輩方、本当に信頼できていつも支えてくれる同期のみんな、可愛くて楽しい後輩たち、こうして最高の仲間と出会えたことを心から感謝しています。KUMCに入ったからこそできた経験や、出会えた多くの方々から、今の私がいます。先輩方から引き継いだバトンを、これからもつないでいけるように、1つ1つを大切に、精いっぱい頑張っていきたいと思います。



「WEVO」

代表：山崎 光莉

私たち WEVO は、地域の養護老人ホームの施設をお借りし、地域の子どもたちや地元の方々をお招きして、子どもたちと遊んだり勉強をサポートするほか、ゲストの方々のステージ発表の鑑賞、昼食を共にするなど心地良いサロン作りを企画し、毎月開催しています。楽しく積極的な企画運営を取り仕切るサロンの職員の方の協力のおかげで、この活動は私たちメンバーにとって中心的な活動となりました。他にも大和川清掃や幼稚園訪問など、地域の方々の協力を得て活動しており、感謝の気持ちを忘れずこれからも活動を続けていきたいと思っております。



9 広報活動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動を行っている。

1 Web サイト

タイムリーな情報を発信し、ボランティア参加に繋がるように心がけた。

KANSAI UNIVERSITY

関西大学ホーム | 入学試験情報 | お問い合わせ一覧 | 交通アクセス | キャンパスマップ

関西大学 ボランティアセンター VOLUNTEER CENTER

事務室時間帯 | お問い合わせ | サイトマップ

Google™

HOME | 実施事業 | 学生スタッフ育成事業 | 新着情報

NEWS & INFORMATION

- 2018/11/29 ボランティア体験ツアー～魅力発見!吹田クワイア収穫ボランティア～
- 2018/11/27 ボランティア体験ツアー「まちFUNまつり in 関西大学2018」サイエンスセミナー&子どもの職業体験&ミス/流忍者学校の補助ボランティア
- 2018/11/19 【関大クリーン大作戦in梅田】(参加者募集)
- 2018/10/29 【受講者募集】あなたのコミュニケーションスキルを高めませんか?
- 2018/10/25 ボランティア体験ツアー ～初めの一歩でつながる命～献血ボランティア
- 2018/10/16 [ボランティア参加者募集]学園祭で子

ボランティアセンターでは様々なボラ

→ やってみようと思ったら

→ 講座・講習会

→ ボランティア情報

所長挨拶 MESSAGE

学生スタッフの活動 ACTIVITY OF VOLUNTEER STUDENT

ボランティア依頼 VOLUNTEER REQUEST

ボランティア体験報告 VOLUNTEER REPORT

地域貢献を行う学生団体 COMMUNITY INVOLVEMENT

学生生活支援グループ 奨学支援グループ

スポーツ振興グループ SPORTS PROMOTION GROUP

ピア・コミュニティ PEER COMMUNITY

Volury ボラリー 関西大学ボランティアセンター通信

COPYRIGHT KANSAI UNIVERSITY VOLUNTEER CENTER

| HOME | 所長挨拶 | 実施事業 | 学生スタッフの活動 | 講座・講習会 | ボランティア体験報告 | ボランティア保険 | お問い合わせ | 個人情報保護方針 | アクセス | 関西大学ボランティアセンター Tel:06-6368-1121(代)

2 クリアファイル

クリアファイルは、2008年度からボランティアセンターと学生スタッフの広報手段として作成しており、受け取った学生が日常的に使用してくれることで認知度向上に繋がっている。

2017年度は、2,000部を作成し、クリアファイルに機関紙『Volury』を入れると、タイトルが見えるようなデザインに工夫した。

2017年度は、「思い出」をコンセプトにデザインした。右下部にあるカメラは、清掃活動や地域活性化などのボランティア活動中の一瞬を写真におさめ、ボランティア参加者の笑顔や楽しさなどの活動の雰囲気も撮影できることを示している。全体のアルバムは、中央の空白の部分ファイルをファイル内の資料が見えるよう機能的にしながら、空白を“自分自身”に置き換え、これからのボランティア活動について想像してほしい、そして関大生に対して一緒にボランティアの思い出を作ろうという学生スタッフからのメッセージを込めている。

全体のイラストはやわらかい手書き風の色合いで、ボランティア活動中の“人とのふれあい”のあたたかさを表現している。



2017年度版 (2,000部)

3 ボランティアセンターリーフレット

本紙は、ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新入部員獲得を目的に作成し、2010年度より新入生全員に配付している。

作成以降、センター来室者が増加し、学内のボランティア団体においては新入部員の増加に繋がっている。



2017年度版(12,500部)

4 機関誌『Volury (ボラリー)』の発行

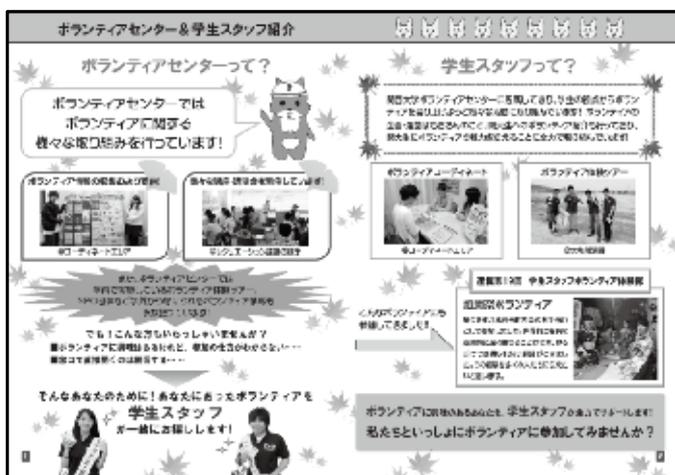
職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心とし、学生スタッフの自主性を引き出すように支援した。

- ・ vol.32 (4月1日発行)、vol.33 (9月20日発行)、vol.34 (12月22日発行)
- ・ vol.32は12,500部、vol.33・34は2,000部発行

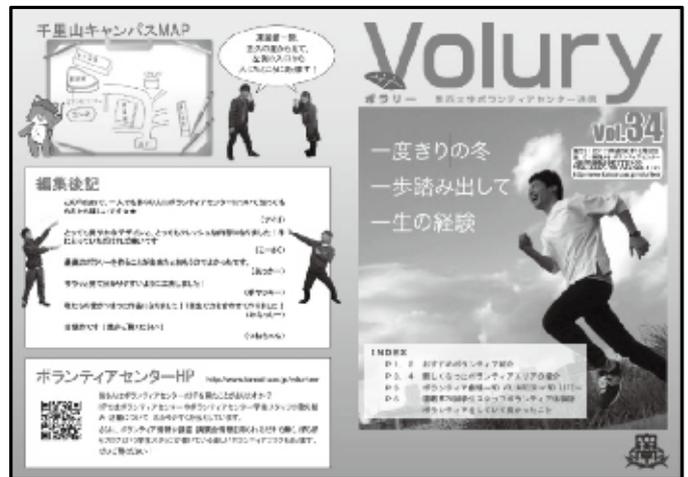
新入生向けにボランティアセンター、ボランティア団体の紹介をした。また、学生スタッフのボランティア体験隊に加え、ボランティア体験ツアーの紹介を学生スタッフの感想とともに作成した。



ボランティアセンターと学生スタッフの紹介、おすすめボランティアをランキング形式で紹介し、ボランティアの魅力について、体験談を交えて伝えた。



おすすめボランティア・ボランティアエリアの紹介、ボランティア参加までの流れを4コマ漫画で表現し、手に取った学生に分かりやすく紹介した。



10 学 生 の 声

ボランティア体験報告

ボランティアセンターは、活動参加者がボランティア体験について振り返る機会を作るために、体験報告を寄せてもらうよう呼びかけをしている。また、体験報告をホームページなどに掲載し、自由に閲覧できるようにしている。体験報告を読むことで、具体的なイメージが湧きやすく、同じ関大生が参加したボランティアであれば、安心して参加できるという学生も少なくないようである。

ここでは、2017年度に学生から寄せられた体験報告を一部紹介する。

環境

内 容	大学周辺の清掃活動（関大クリーン大作戦 in 千里山キャンパス）	
日 程	4月9日（日）	
ボランティア 参加者感想	<p>普段、道中のゴミを拾う機会がないので、とてもいい経験となりました。この活動を通して、改めてゴミを道などに捨ててはいけないと考えるきっかけとなりました。</p> <p style="text-align: right;">（システム理工・1年次生）</p>	
学生スタッフ 感想	<p>1人でこの活動に参加していた学生ボランティアの方も、活動を始める前に友達ができたり、活動中に仲良くなっている場面を見ることができて嬉しかったです。活動の中には人との関わりの輪を広げることも含まれていることを改めて実感しました。</p> <p style="text-align: right;">（文・2年次生）</p>	

内 容	清掃活動（淀川掃除）	
日 程	4月16日（日）	
ボランティア 参加者感想	<p>入学後のオリエンテーションの際に、ボランティアセンターの職員の方が紹介されたボランティアセンター学生スタッフのビデオが素敵だったので、参加しました。学生スタッフの方が気軽に声をかけてくれて、他の1回生との交流のきっかけをつくってくれたので楽しみながら清掃活動ができました。</p> <p style="text-align: right;">（社会・1年次生）</p>	
学生スタッフ 感想	<p>ゴミは思っていたよりすぐ拾い終えてしまって手持無沙汰になっている人もいましたが、学生スタッフから「よく見ると小さいゴミが落ちているので、探してみてください」という声掛けができて、とてもよかったですと思います。</p> <p style="text-align: right;">（文・2年次生）</p>	

内 容	姫蛍保護に係るビラの配布及びキャンドルの設置・点火 (みんなで守ろう！蛍の光ボランティア)
日 程	5月13日(土)
ボランティア 参加者感想	地域の方と一緒に活動でき、自然を守る大切さについて知ることができて良かったです。ホタルも実際に見ることができて嬉しかったです。(法・1年次生)
学生スタッフ 感想	準備段階から担当の学生スタッフ全員が力を合わせて準備に取り組むことができたので、全員が当日の行動に関する理解のレベルが同じであったことがよかったですと思います。学生ボランティアのアンケートでは、「地域の方と交流できてよかった」との意見が多く見られ、広報の段階で地域の方との交流アピールすることにより多くの方に参加してもらえないかと思いました。(文・3年次生)



内 容	清掃活動(第1回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～)
日 程	2月18日(土)
ボランティア 参加者感想	大和川はとても地元から近く、馴染み深い場所を綺麗にしたいと思い参加しました。ゴミ拾いの範囲、分別袋がきちんと決められていて活動しやすかったです。 (社会・2年次生)
学生スタッフ 感想	当日は天候も良く、活動しやすかったです。大和川は広くてゴミが多かったので、とてもやりがいがありました。また、普段見かけないような変わったゴミも多く、それもまた学生ボランティアの方との交流のきっかけになりました。 (法・2年次生)



イベント

内容	キャンドルの設置・点火（梅田キャンドルナイト 2017）
日程	6月1日（木）
ボランティア 参加者感想	キャンドルに火を灯すのが難しく、少し苦戦しました。色々な団体のキャンドルを見ることができ、嬉しかったです。 (社会・1年次生)
学生スタッフ 感想	参加してくださった学生ボランティアの方々から「楽しかった」「普段体験できないことを体験できた」などの言葉をいただくことができたので、嬉しかったです。学生ボランティアさんとの関わりを持ちながら、活動ができるよう取り組むことの大切さを改めて実感しました。 (文・3年次生)



内容	灯籠の配置・点火（飛鳥光の回廊）
日程	9月23日（土）・24日（日）
ボランティア 参加者感想	一度でもボランティアに参加しようと思っていて、このボランティアが面白そうだったので参加しました。明日香村について少しでも知ることができてよかったです。キャンドルがとても綺麗でやりがいがあり楽しかったです。 (システム理工・1年次生)
学生スタッフ 感想	当日のみならず、キャンドルデザインの計画段階から学生ボランティアと交流する機会があり、明日香村の方々とも灯籠のセロハン巻きや街灯の準備を通じて事前に交流することができました。長時間携わることにより、当日にかける想いも強くなり、関わった人全員で作上げた達成感はとても気持ちがよかったです。 (化学生命工・1年次生)



内容	献血広報活動（あなたの勇気が誰かの命を救う、献血ボランティア）
日程	10月27日（金）
ボランティア 参加者感想	普段あまり馴染みのない献血について知りたいと思ったので、ボランティアに参加しました。献血によって多くの人の命を救うことができると知り、呼びかけをしたので、道行く関大生にも献血について知ってもらおうことのできたのでよかったです。 (文・2年次生)
学生スタッフ 感想	日本赤十字社の方に、「明日から台風の影響で血液が不足しがちなので、よろしくをお願いします。」と言われたことが心に残っています。普段医療のことについて考える機会が少ないので、今こうしている間も助けを求めている人がいるのだということが印象的でした。自分の小さな勇気が人の命を助けるという大きなことにつながるということを、改めて実感することで、情熱を込めて学生へ呼びかけることができました。 (法・2年次生)



11 資 料

ボランティアセンター内規

制定 平成 17 年 4 月 28 日

(趣 旨)

第 1 条 この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第 12 条第 2 項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、本学学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

(事 業)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボランティアの相談に関すること。
- (2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
- (3) ボランティア講習会に関すること。
- (4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
- (5) その他ボランティアに関すること。

(登 録)

第 4 条 センターの利用を希望する学生は登録するものとする。

(センター長)

第 5 条 センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

(ボランティア連絡協議会)

第 6 条 センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第 12 条第 2 項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次の者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 学生センター副所長 1 名
- (3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- (4) 学生サービス事務局長
- (5) 学生サービス事務局次長
- (6) ボランティア活動支援グループ長
- (7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパスグループ・高槻ミューズキャンパスグループ・堺キャンパス事務室）若干名

3 協議会の議長は、センター長とし、副議長は、議長の指名による。

4 第 2 項第 1 号、第 2 号及び第 4 号から第 6 号までに規定する委員の任期は役職在任中とする。

5 第 2 項第 3 号に規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

6 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

7 協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(学生スタッフ)

第 7 条 センターに、学生スタッフを置く。

2 学生スタッフは、第 3 条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

第 8 条 この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

(事 務)

第 9 条 ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附 則

この内規は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成 18 年 10 月 12 日から施行し、平成 18 年 8 月 1 日から適用する。

附 則

この内規(改正)は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規(改正)は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この内規(改正)は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2 この内規(改正)施行の際に第 6 条第 2 項第 3 号により選出される委員の任期は、同条第 5 項の規定にかかわらず平成 26 年 9 月 30 日までとする。

関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

- 1 公益性・公共性が高い活動
- 2 営利を目的としない活動
- 3 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動

(1) ボランティア募集の受付

- ①初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ(A4サイズに限る)」を持参のうえ、来室をお願いします。(教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。)
- ②来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
- ③ボランティア募集団体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
- ④学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
- ⑤個人からのボランティア募集は受付いたしません。(地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。)

(2) ボランティア団体・活動の選定基準 (以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。)

- ①法令に違反するもの
- ②公序良俗に反するもの
- ③人体に有害なもの、危険が伴うもの
- ④政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの
- ⑤関西大学ボランティア連絡協議会が不適当であると判断するもの

(3) ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

- ①ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
- ②ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
- ③ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
- ④学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。
- ⑤次の内容を含む活動については紹介できないこととする。
 - (ア) 22時以降6時までの深夜早朝活動
 - (イ) 精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
 - (ウ) 水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
 - (エ) 車の運転
 - (オ) 本来、有資格者によってなされるべき活動

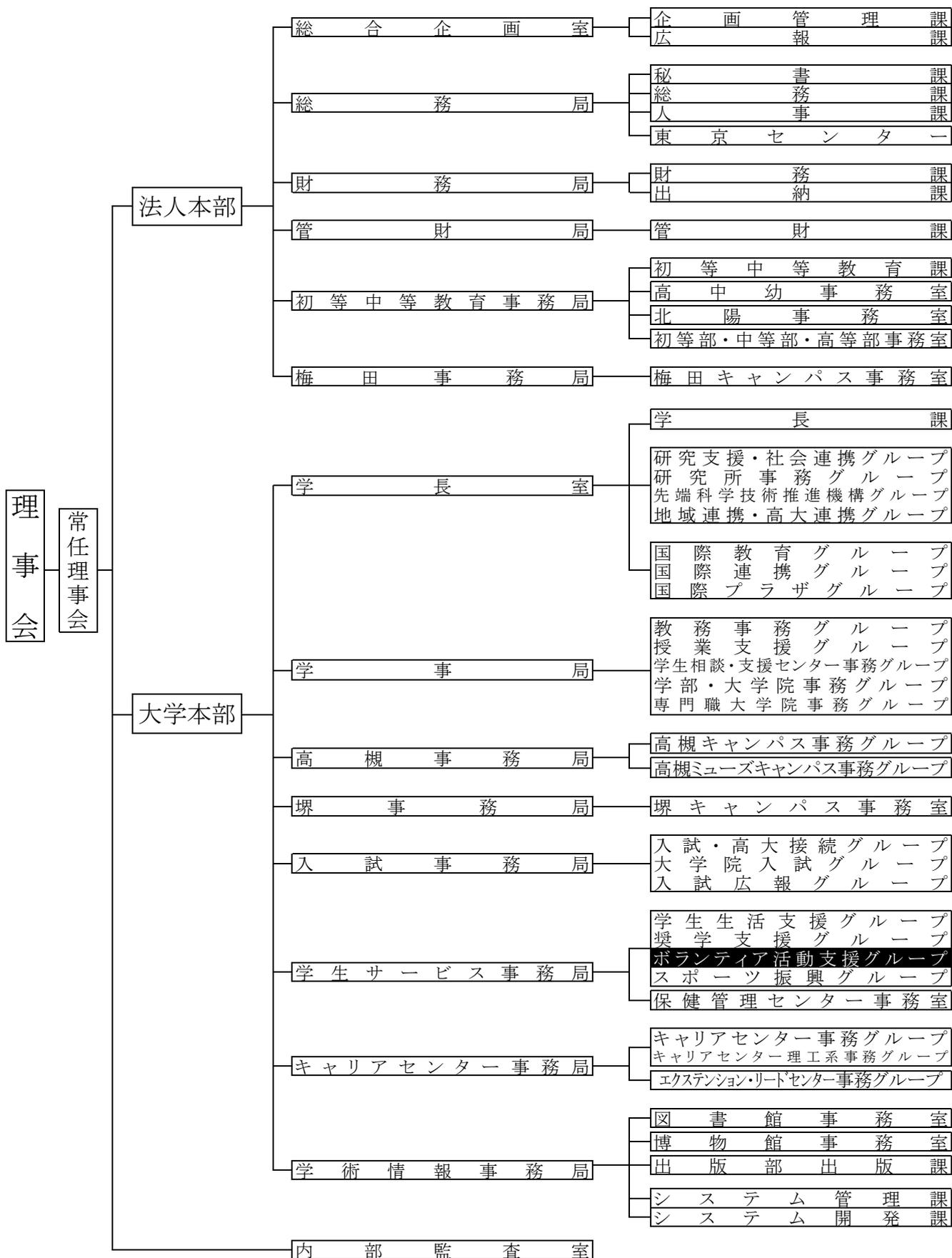
(4) 免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以上

2017年度 事務組織図

2017.4.1 現在



関西大学ボランティア連絡協議会委員

2017.4.10 現在

所 属・ 資 格	氏 名	任 期	備 考
ボランティアセンター長 (政策創造学部・教授)	岡 本 哲 和	役職任期中	委員長
学生センター副所長 (化学生命工学部・教授)	松 村 吉 信	役職任期中	副委員長
社会学部・教授	加 納 恵 子	2016.10.1 ～2018.9.30	
政策創造学部・准教授	橋 口 勝 利	2016.10.1 ～2018.9.30	
人間健康学部・准教授	灘 英 世	2016.10.1 ～2018.9.30	
学生サービス事務局長	中 塚 義 史	役職任期中	
学生サービス事務局次長	鈴 木 啓 祐	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ長	堀 律 子	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ	藤 野 雅 士		
ボランティア活動支援グループ	村 上 翔 也		
高槻キャンパスグループ	高 原 優 佳		
高槻ミューズキャンパスグループ	佐 藤 喜 大		
堺キャンパス事務室	前 田 貴 史		

2017 年度ボランティア活動支援グループスタッフ

ボランティア活動支援グループ長	堀 律 子
ボランティア活動支援グループ	藤 野 雅 士
	村 上 翔 也
	山 本 未 希
	横 矢 菜 津 美
	三 浦 茜

大学案内 2018(2017 年発行)

ボランティアを通じて、将来の進路が見えた！



関西大学 社会福祉 社会学科 心理学専攻 4年次生
ボランティアセンター 学生スタッフ
星島 七海 部長/前々副部長/副部長

むととは心理カウンセラーを始め、高輪時代から中学生対象の学習支援活動に参加。家庭の経済状況により通えない子どもを対象に、勉強を教えるほか、悩み相談や生活のリポートも行っています。この活動を通じ、他大学の学生や年代の異なるスタッフと日々、話し合うなかで、将来は精神面だけでなくさまざまな方法で人を支えたいと思うようになった。こうしたボランティアの魅力を

伝えるため、今はボランティアセンターの学生スタッフとして積極的に活動しています。

私の1日 One Day Report



オススメの理由

ボランティアを一人で探して参加するのは不安かもしれませんが、ボランティアセンターは「初めの一歩」を踏み出す最適な場所です。

現役関大生に聞きました!

Kan-Daiの今

2017 年 11 月 26 日(日)に開催された第7回大阪マラソン。
関西大学からは 40 人のランナーと、給水をはじめチャリティ・語学・清掃ボランティア
総勢約 500 人が参加。また「ランナー盛上げ隊!」として、応援団やジャズ研究会・
フラダンスサークルなどの団体が、沿道で力強い応援パフォーマンスを繰り広げました!
今回は、ランナーとボランティアで参加した方々のなかからお話を聞きました。



Q. 皆さん、お疲れさまでした!
“いちばん印象に残ったこと”
を教えてください!



Be Proud I AM KANDAI 24



□ 灯笼に火を灯して わかったこと



遠藤 曹
(2016(平成28)年度
ボランティアセンター副代表)

私は高校生の頃、清掃ボランティアに何度か参加したことがありました。大学生になり、ボランティアには清掃活動だけでなく、子どもや障がい者と関わる活動や地域のイベントに参加する活動等様々なものがあることを知りました。それに興味を覚えたことが、私がボランティアを始めるきっかけとなりました。

一番思い出に残っているのは、奈良県明日香村で灯笼に火を灯す地域振興イベントにリーダーとして参加したことです。初めて訪れる場所でも様々な年代の方と交流しながら活動し、多くの人に喜んでもらえたことは、貴重な経験になりました。

私は人と接することが苦手ですが入学後は不安もありましたが、ボランティア活動を通して多くの人に支えられることで少しずつ慣れていき、物事に対し自信をもって前向きに取り組めるようになったと感じています。(文学部4年次生)

□ フィリピンの行って わかったこと



小坂 綾穂
(2016(平成28)年度
ボランティアセンター副代表)

私は2016(平成28)年の夏、フィリピンでストリートチルドレンに音楽教室を開くというボランティアに初めて参加しました。実際に現地へ行くことで、人びとがただ貧困に苦しむだけの生活をしているのではなく、毎日家族との会話を楽しみ、子どもの成長を喜び、友達と無邪気に遊び、笑顔に溢れる生活を送っていることがわかりました。それでもやはり、子どもが働くことが珍しくなく、今日は働く日だからと教室に来られない子どもを見て、笑顔の裏の苦しみの実情を見た気がします。将来の夢について、そもそも知っている職種が少なく、夢が広がらないことにも悲しみを感じました。「世界から、貧困が理由で夢を諦める子どもがいなくなる」という私の夢は、非常に難しいことですが、諦めたくないと感じた日々となりました。(文学部3年次生)

□ 花壇を手入れして 気づけたこと



嶋田 諄子
(2016(平成28)年度高槻地区リーダー)

先日、高槻景観園芸クラブの方たちが行っている花壇を手入れするボランティアに参加しました。ボランティアセンター学生スタッフとして高槻・高槻ミューズキャンパスの学生が参加しやすい高槻地域での新しい活動先を探していた中で参加でした。活動で印象に残ったことは、団体の方から活動を始めた理由について、自分が花いっぱい綺麗な街に住みたいと思ったからだと教えていただいたことです。

活動中、通りすがりの方に「きれいにしてくれてありがとう。」と声をかけてもらえたときは嬉しく、綺麗になった花壇は見てくれる人びとや手入れした自分たちをも笑顔にしてくれることに気づきました。今回の活動で学んだボランティアの楽しさややりがいは、今後の学生スタッフとしての活動にも活かしていきたいと思えます。(文学部3年次生)

ボランティア活動の教育的効果について

□ 心からの笑顔を探しに



ボランティア活動支援グループ長
堀 律子

関西大学によるこそ。キャンパスライフの始まりです。授業やクラブ・サークル活動、アルバイト、友達作り。いかがお過ごしでしょうか。

皆さまもご存知と思いますが、大学には、今も五月病があります。高校の延長のような感覚で、大学生活をスタートするのですが、笑顔が消えていきます。それは何故でしょうか。

大学は答えを教えるのではなく、答えを自分で見つける手助けをするところ。それは、「様々な考えの中から、自分で理由を考え、賛成・反対の意見をもつ。」なのですが、絶対的な正しさはありません。どちらがより正しいかです。

高校までの勉強と違うのは、その不透明で曖昧な結論にあります。大学では疑問をみつけ、探究することが大切なのです。中にはそれを苦手に感じる学生がいます。真面目なの

ですが、人間性が幼い感じがします。そんな学生は、就職活動で大変苦労します。知識があっても、自分の意見がないと面接官の印象に残りません。「説得力、判断力、コミュニケーション力」が必要。では、どうすればこれらの能力が身につくのでしょうか。

ボランティア活動は人間性を豊かにし、自分を成長させる課外教育活動でもあります。ボランティアは他人のためにするとお考えの人もいますが、それ以上に自分のためなのです。

ボランティアの魅力は、活動を通して得る様々な人との出会いそしてつながりだと言われています。このような出会いと気づきは、机上の学びだけでは得ることができません。

ボランティアの意義を、ボランティア論、心理学から説明するより、実際に活動している学生の話を書く

ほうが分かりやすいと思います。ボランティア活動を真面目にした学生と、しなかつた学生を比べると、その笑顔が違ってくるから。



淀川大掃除2017(平成29)年2月

次頁の学生の笑顔と体験談をご覧ください。

簡単なことから始めませんか。忘れていた笑顔を取り戻せるかもしれません。

興味を持たれたら、関西大学ボランティアセンターのホームページをのぞいてみて下さい。そこには、当センターが支援するボランティア活動が載っています。

その一部を紹介します。
600名規模で行う国土交通省認定の「淀川大掃除」、奈良県明日香村との連携事業の「飛鳥光の回廊」、
「大阪マラソン給水ボランティア」、
そして、「熊本地震義援金募集活動」等々。

また、2016(平成28)年度は
本学創立130周年を記念し「富士山清掃ボランティア」も行いました。
私たちは、ボランティア活動を通してひとりでも多くの関大生が、考動力。あふれる人材に育つよう、支援しています。

ご父母・保護者の皆さまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

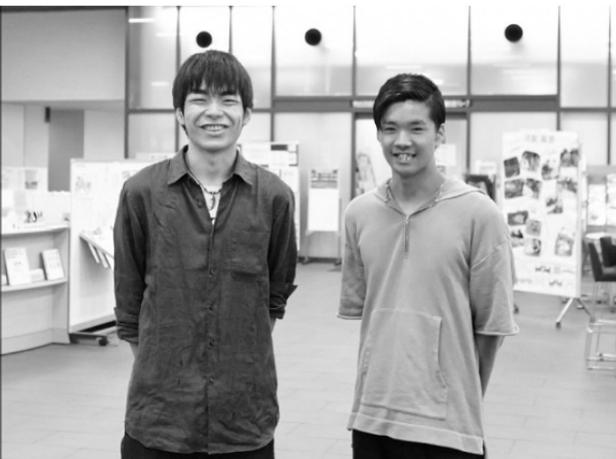
2017
年度
掲載

✦ 関大でプラス!

「関大生が中心となって行う
ボランティア活動の
企画・運営に
取り組んでいます」

環境都市工学部
都市システム工学科
白土 雄貴さん
福島県 / いわき秀英高等学校卒業

文学部 総合人文学科
国語国文学専修
武市 広紀さん
熊本県 / 県立玉名高等学校卒業



✦ 関大でプラス!

関西大学ボランティアセンター



本学ボランティアセンターはボランティア活動に関するさまざまなサポートを行い、学生の社会体験を通じて大学と地域とのつながりをコーディネートしています。また、関大生にボランティアを広めることを目的として活動している学生スタッフがあり、ボランティア情報の紹介、イベントの企画・運営などを行っています。ボランティア活動は人間性を豊かにし、自分を成長させる課外教育活動でもあります。学生が活動を通してスキルだけではなく「人間力」と「考動力」を身につけ、社会貢献できる人材となるよう支援しています。

● 関西大学ボランティアセンターについて



白土 雄貴さん



武市 広紀さん

Q ボランティアセンターの学生スタッフとして活動することになったきっかけを教えてください

白 土：私は福島県出身です。中学2年生のときに当時日本周辺における観測史上最大の地震であった「東日本大震災」を経験しました。多くの犠牲者が出た震災時に、他県のボランティアの方々にも助けてもらったことが、ボランティア活動に興味をもったきっかけです。

武 市：大学入学後「何かしたいなぁ」と考えていた時に、友人に誘われたことをきっかけに学生スタッフになりました。あまりボランティアの経験はなく、深く考えて活動に参加したわけではありませんでしたが、今ではボランティアセンター学生スタッフの活動に力をいれて充実した日々を過ごしています。



Q 具体的な活動内容について教えてください

白 土：「関大生にボランティアの魅力を伝え、広めること」を目標に、ボランティア経験のない学生に気軽に参加してもらえるボランティア活動の企画・運営「ボランティア体験ツアー」等を主に手がけています。

武 市：その活動と並行して、学生スタッフは大学班、河川班、高槻班、吹田班、明日香班、広報班、ボラリー班といった班のいずれかに分かれて所属し、清掃活動をはじめ、地域の小学校での「防災」についての意識啓発や地域活性のイベントのお手伝いといった活動にも取り組んでいます。



Q これまでの活動で印象に残っているエピソードについて教えてください

白 土：2017年2月に、関西大学の学生を中心に、スポーツメーカーのミズノ株式会社と連携して行う「第六回淀川大掃除」という600人規模の大きなイベントを実施しました。私はリーダーを務め、企画・運営に携わりました。

武 市：白土さんから副リーダーに指名され、私も中心的な立場で「淀川大掃除」の企画・運営に関わりました。関西大学の学内・外問わず、各団体を訪問して参加を呼びかける役割も担いました。緊張はしましたが、たくさんの方の前で話をしたことも自分にとっては成長できる機会であったと感じます。

白 土：大きなイベントのリーダーを担当したことで、参加いただく一般学生や体育会の方々、ミズノの社員の方々など、いろいろな人たちの立場から物事を考えられるようにもなりました。「どうすれば清掃を安全に体験してもらいながら、より気持ちよく行動してもらえるのか」「どうすれば参加者の方々にたくさんの方々と交流してもらいながら、充実した時間を過ごしてもらえるのか」などを意識して企画・運営に取り組むことができました。

武 市：準備期間は約2ヵ月間で、事前の広報から運営まで大変なことも多かったのですが、目標だった600人に参加いただくことができ、当日のボランティア活動が終わったときは大きな達成感と安堵感が得られました。具体的には、参加者同士が交流しやすいように「アイスブレイク」の時間を設けたり、ゴミの量を下見し参加者の班割りをしながら、限られた時間で効率よく清掃を実施できるように考えたりと事前準備は入念に行いました。結果、参加いただいた一般学生の方から「参加して良かった」「また参加したい」といった意見も聞くことができ、そのときは本当にうれしかったですね。

白 土：他にも、2016年4月の熊本地震の際に義援金募集活動を行いました。東日本大震災の際に私自身が受けた支援に対して、少しは恩返しできたかなと思います。今後、より具体的に公務員として恩返ししたいと考えており、現在は公務員講座を受講しながら日々勉強をしています。

ボランティア活動を通して公務員への就職意欲が高まったこともスタッフをしてよかったと感じています。

武 市：私も義援金募集活動などを通してボランティアへの意識もさらに高まり、今後は個人で被災地に入り、現地での支援活動などにも取り組んでみたいと考えています。



Q ボランティアセンター学生スタッフの活動の大変なところや、やりがいは？

白 土：毎週行われるミーティングで企画に関する意見を出しあい、企画書にまとめ、ボランティアセンターの職員の方に提出します。企画を何度も練り直し、職員の方のOKが出た後で学内でチラシを配り、SNSで情報を発信するなどして、参加者を募集します。

武 市：企画内容のなかで指摘された箇所に対して、そのつど「何が問題だったのか」を考察し、得られた気づきを次回以降の企画を考える際に生かします。この作業を繰り返すなかで、相手の立場に立って考える視点や、企画書を作成する力も身につきました。

白 土：企画・運営以外に、自分たちでボランティア活動にも取り組みます。淀川掃除や関大グリーン大作戦といった清掃活動や「飛鳥光の回廊ボランティア」といった地域連携のボランティアなど、皆で力をあわせてひとつの作業を行うことでチームワークも深まり、達成感もより大きなものに、また活動を通じて学生同士だけではなく、地域の方々との交流が生まれるのも魅力です。

武 市：ボランティア活動中はもちろん、ミーティング中にひとつの議題に対して皆でアイデアを持ち寄り、意見を出しあっている時間も楽しいですね。先輩・後輩も含め、多くの仲間と出会えたことも大きな財産となりました。



Q 関西大学の魅力と、高校生みなさんへのメッセージをお願いします

白 土：入学時から、卒業後は公務員としてまちづくりの仕事に携わりたいと考えていました。それが都市システム工学科に進学した理由で、3年次になってからはエクステンション・リードセンターで公務員講座も受講しています。ボランティアセンター学生スタッフの活動とあわせて毎日が充実しており、自分の目標ややりたいことに対して、全力で取り組める環境が関西大学にはあると思います。

武 市：「自分がしたいと思うことをさせてくれる場所」が大学です。それは勉強に限らず、課外活動でも同じで、私もボランティアセンター学生スタッフの活動を通じて多くの人と出会い、自身を成長させることができました。関西大学に入学し、大学のすばらしさ、楽しさを実感する日々の中で、皆さんもこのフィールドで自分の可能性を広げてみてください！



スキップル(2017年6月5日発行)

クラブ&サークル CHECK IT!



★関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

私達は「学生目線から学生ボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動しています。主な活動としては、ボランティアの企画・運営、ボランティアコーディネート等を行っています。

大阪マラソン 2017 応援サイト(2017年6月5日発行)

ボランティア学生紹介

緑の下の力持ち。総勢約500人の学生ボランティアが大阪マラソンを全力でサポートします！



～給水で支える～

給水ボランティア

マラソン最初の給水所(5km地点)において、関大生および併設校生徒合計400人がランナーの水分補給をサポートするとともに、ハイタッチや大きな声援を通して、たくさんの元気とパワーを送ります。



法学部 2年次生 津本 圭汰(ツモト ケイタ) さん

初めて大阪マラソン給水ボランティアに参加するので、わからないこともたくさんありますが、ボランティアスタッフのみなさんと協力しながら、熱意をもって笑顔でランナーの皆さんを応援していきたいと思っています。

また、ランナーの皆さんにとって一生心に残るような時間を過ごしてもらえよう、元気いっぱい活動に取り組み、ランナーの方にパワーを届けたいと思っています。

関西大学ホームページ トピックス記事(2017年6月5日掲載)

2017年度「マナーアップキャンペーン」を実施しました。

千里山キャンパスで5月30日、学生センターが2017年度「マナーアップキャンペーン」を実施しました。

本学では2008年から毎年、関大生のマナーやモラルの向上をめざした取り組みとして「マナーアップキャンペーン」を行っています。

今年度は関大前駅から関大前通りにおける通学マナーに重点を置き、学生の「ながらスマホ・イヤホン」、車両通過時における学生の歩行マナー、路上喫煙の禁止について、吹田警察署の方々とともにポケットティッシュを配布して呼びかけました。学生センター副所長の松村吉信教授は、「新年度も2ヵ月が過ぎ、落ち着くとともに気の緩みが出る時期」と話し、学生らに注意を促しました。

また、啓発運動に参加したボランティアセンター学生スタッフの北野未実さん(システム理工学部3年次生)は、「歩きスマホをしている学生をよく見かける。特に大学前は車も通る場所なので、周りが見えていない状況は危険」と現状を分析し、事故の未然防止を仲間に訴えかけました。



関西大学ホームページ トピックス記事(2017年9月29日掲載)

奈良県明日香村が主催する「飛鳥光の回廊2017」に本学学生がボランティアとして参加しました。

23日と24日の2日間、奈良県明日香村にて開催された「飛鳥光の回廊2017」に、本学学生がボランティアとして参加しました。

本ボランティア活動は、明日香村との地域連携協定（2006年締結）に基づく事業の一環として2011年から開始し、今年で7年目を迎えました。「飛鳥光の回廊」は、石舞台古墳をはじめ、飛鳥寺などの明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、さらには20,000本を超えるろうそくの灯りで光の地上絵を表現するなど、村を光で包む幻想的な催しです。今年も「彼岸花まつり2017」も同時開催し、真っ赤な彼岸花とろうそくの光で明日香村を彩りました。

運営スタッフとして参加した学生は、石舞台古墳周辺および島庄大字の通路を飾る灯ろうのデザイン、配置、製作、ろうそくの点火などを担当。今年度の光の地上絵は、全体テーマ「明日香に咲く、輝きの花」のもと、「四季の花と風景」をイメージしてデザインを作成しました。石舞台古墳の周辺では、色鮮やかなチューリップや朝顔、彼岸花、椿など数々の地上絵が輝きました。また、四季の花以外にもウサギが餅つきをする様子など、学生ならではのデザインで明日香村の夜に光の彩りを添えました。

参加した学生は「企画や当日の活動では大変な事もありましたが、普段の学生生活では体験できないような充実した時間を地域の方々とともに過ごすことができました。さらに多くの関大生に是非参加して欲しいです」と感想を述べました。

ボランティアセンターでは、学生のボランティア参加のきっかけとなるようなプログラムをさまざまな形で実施しています。詳しくは、ボランティアセンターウェブサイトをご覧ください。



関西大学ホームページ トピックス記事(2017年11月23日掲載)

ボランティア体験ツアー「～高槻花植えボランティア 高槻に咲かす！つながりの花！～」を実施しました。

ボランティアセンターが19日、ボランティア体験ツアー「～高槻花植えボランティア 高槻に咲かす！つながりの花！～」を実施しました。

当日は、有志の学生と同センター学生スタッフ11人が参加。学生たちは、高槻市園芸クラブの方にレクチャーを受けながら、JR高槻駅のガーデン周辺にパンジーやデイジーなどの花を植えました。

秋晴れの下、学生たちは地域の方との会話を楽しみながら、ガーデンを色とりどりに彩り、「談笑を交えながら花を植えるのが楽しかったです。次は星の形や文字などを花で表現したいです」と感想を述べました。



関西大学ホームページ トピックス記事(2017年12月22日掲載)

「琵琶湖ツーリズム」～関大生で考える環境ボランティアの未来～を実施しました。

ボランティアセンターが17日、淀川掃除10周年特別企画として「琵琶湖ツーリズム」～関大生で考える環境ボランティアの未来～を実施しました。

当日は朝早くから学生・教職員総勢21人が千里山キャンパスに集合し、琵琶湖の清掃活動と、現在琵琶湖で猛威を振るっている外来植物のオオバナミズキンバイの駆除活動を実施。オオバナミズキンバイは繁殖力が非常に強く、日本古来の植物を枯らし生態系を破壊してしまいます。そのため、根や茎を残さないように、気温5度の寒い中、認定NPO法人びわこ豊稔の郷の方々と共に丁寧に除去作業を行いました。

午後からは「みさき自然公園」に移動し、認定NPO法人びわこ豊稔の郷・理事長の金崎いよ子氏から琵琶湖の環境問題について学び、その後、振り返りワークを行いました。

参加した学生からは「百聞は一見にしかずで、実際の環境問題に触れることで多くの学びが得られました」「活動に参加して一度壊してしまった環境を戻すことの大変さを知ることができました」と述べ、活動を振り返りました。



関西大学ホームページ トピックス記事(2018年2月23日掲載)

ボランティアセンターが「第1回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を実施しました。

ボランティアセンターが18日、「第1回大和川大掃除～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」を実施しました。

本活動は、学生らが中心となり、年々規模を拡大しながら取り組んできた河川敷の大掃除で、ミズノ株式会社との連携事業です。2011年度～2016年度までは、淀川の清掃活動を行いゴミの減量に貢献してきました。今年度は学生達に身近な環境問題への気づきやボランティア活動の楽しさを感じてもらうことを目的に、新たに堺キャンパスに近い大和川の清掃活動に取り組みました。

当日はミズノ株式会社社員らとともに本学学生および教職員ら総勢300人が参加。冬の寒さに負けず、声を掛け合いながら協力して回収したゴミ袋は145袋に。どんどんきれいになっていく河川敷に参加者たちは充実した様子で喜び合いました。参加した津本圭汰さん（法学部2年次生）は、「みんなと一緒に楽しく清掃することができました。拾ったゴミの量を見て、多くの人と協力すれば、こんなに大きなことができるのだと感じました」と清掃活動での感想を語りました。



編集後記

「人間ならば誰にでも、現実のすべてが見えるわけではない。多くの人は、見たいと欲する現実しか見ていない。」

アドラー心理学の認知論で知ったのですが、古くはカエサルという言葉だったようです。

道を歩いているとき、足元に小さな花を見つける時があります。スマレ、ツユクサなど華憐に咲いているのですが、お気づきですか。

ボランティア活動への理解も、無料・安いアルバイトくらいに思っている人達が大勢います。でも、実際に活動をしている彼ら、彼女らの顔に浮かぶ表情を見てください。しんどい、つらい時もあります。やり遂げ、自信を得たときの顔は、とてもいいものです。簡単に花は咲かないですね。

「大学生になれば何か面白いものがある」と思って入学したのに、何もしないまま卒業する学生がいます。就職活動を始めて、そのことにやっと気が付いても時間は戻りません。

いくら言葉で飾ろうと、自信のなさは隠せないのです。

前職キャリアセンターでの学生対応の経験から、学生に足りないのは「自信」だと感じました。では、どうすれば見つけさせることができるか。

なかなか答えは見つかりませんでした。

学生も、見たいものしか見ない。聞きたいものしか聞かない。つまり、「自分のなかの壁を壊す方法を知ろうとしない、壁があることすら知らない」ということに気が付きました。

学生が、新しい自分を知る、脱皮するきっかけになるものは何だろうか、というのが私の課題でした。その答えがボランティアです。その視点で当センターでは学生支援をして参りました。

学生達の小さな笑顔を見つけるのが楽しみです。皆様のおかげであちこちに見られます。よかったら、見つけてみて下さい。たくさんのご協力にお礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

ボランティア活動支援グループ
グループ長 堀 律子

2017 年度活動報告（第 12 号）編集委員

ボランティア活動支援グループ	グループ長 堀 律 子
	村 上 翔 也
	三 浦 茜
	大須賀 真帆
ボランティアセンター学生スタッフ	2017 年度代表 武 市 広 紀

2017 年度 活動報告書（第 12 号）

発 行 日 2019 年 3 月 20 日
発 行 所 関西大学ボランティアセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3-35
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6368-0703
<http://www.kansai-u.sc.jp/volunteer>
印 刷 所 株式会社 ディーワーク
〒532-0026 大阪市淀川区塚本 3-14-6



関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

TEL.06-6368-1121

FAX.06-6330-3703

<http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer>